



社団法人 鳥取青年会議所

# 創立50周年記念誌

Junior Chamber International Tottori 2009







社団法人 鳥取青年会議所

創立50周年記念誌  
Junior Chamber International Tottori 2009

# 目 次

JCIクリード・JC宣言・綱領	01
JCソング・若い我等・明日のために	02
創立50周年ロゴマークおよび大会コンセプト	03
創立50周年記念式典・記念祝賀会	04
創立50周年記念講演	05
鳥取JCミュージアム	06
創立50周年記念事業	07
ごあいさつ 社団法人 鳥取青年会議所 理事長	08
ごあいさつ 社団法人 鳥取青年会議所50周年実行特別委員会 委員長	09
祝 辞 鳥取県知事	10
祝 辞 鳥取市長	11
祝 辞 岩美町長／若桜町長	12
祝 辞 智頭町長／八頭町長	13
祝 辞 社団法人 日本青年会議所 会頭	14
祝 辞 社団法人 日本青年会議所中国地区協議会 会長／ 社団法人 日本青年会議所中国地区鳥取ブロック協議会 会長	15
祝 辞 社団法人 米子青年会議所 理事長／社団法人 釧路青年会議所 理事長	16
祝 辞 外部褒賞者	17
祝 辞 外部褒賞者	18
鳥取青年会議所誕生	19
因幡の歴史と誇り	20
鳥取JCのまちづくり	22
過去への敬意と感謝	24
釧路市と鳥取市交流の歴史	26
社団法人 釧路青年会議所と社団法人 鳥取青年会議所交流の歴史	27
シニアクラブ	28
鳥取JC50年のあゆみ	29
創立50周年運動ビジョン	57
これからの社団法人 鳥取青年会議所	62
因幡市民憲章	64
2009年度 社団法人 鳥取青年会議所 組織図	66
会員名簿	67
OB会員名簿	78
物故会員	89
青年会議所とは	90
編集後記	92

# The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality; and

That service to humanity is the best work of life.

## JCI綱領

我々はかく信じる；

信仰は人生に意義と目的を与え人類の同胞愛は国家の主権を超越し

正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最もよく達成され

政治は人によって左右されず法によって運営さるべきものであり

人間の個性はこの世の至宝であり人類への奉仕が人生最善の仕事である

## JCI宣言

## 綱領

日本の青年会議所は

混沌という未知の可能性を切り拓き

個人の自立性と社会の公共性が生き生きと

協和する確かな時代を築くために

率先して行動することを宣言する

われわれJAYCEEは

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し

志を同じうする者相集い力を合わせ青年としての

英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう

## JCソング

作詞:松田 基

作曲:奥山 勝太郎

1. JC JC JC  
世界を結ぶ 若き団結  
新しき世紀の 希望となりて  
永遠に繁栄えん 我等の集い

2. JC JC JC  
奉仕の理想 探究めつつ  
祖国の進歩の 力となりて  
先駆けゆかん 我等の集い

## 若い我等

作詞・作曲:入江 義朗

1. 若い我等が 手を取り合って  
進む行手の 青い空に  
輝くJC 明るい希望  
足なみをそろえて 行こうじゃないか

2. 世界を結ぶ 若さの力  
互いに尽す 楽しさこそ  
JCの理想だ 新しい日だ  
足なみをそろえて 行こうじゃないか

3. 若い我等の 心を集め  
つくる集いに 未来をかけて  
JCの仲間は 皆信じあう  
足なみをそろえて 行こうじゃないか

## あした 明日のために

作詞:三木 重昭

作曲:いずみたく

1. 若さと若さが 手を結び 明日にいつも 向かうのだ  
豊かな未来 めざしつつ 日本の道を 創ろうよ  
行こうJAYCEE 明日のために 行こうJAYCEE 明日のために

2. 心と心を つなぎ合い 大きな虹を かけるのだ  
生きてることの 喜びを すべての人に 投げかけて  
行こうJAYCEE 明日のために 行こうJAYCEE 明日のために

3. 命と命が 満ちあふれ 光りとなって 燃えるのだ  
世界の窓に いつの日も 希望の夢は はばたくよ  
行こうJAYCEE 明日のために 行こうJAYCEE 明日のために

## 創立50周年記念大会ロゴマーク



### ロゴマークコンセプト

- 創立50周年後も継続使用できるマークとしました。
- 花は「因幡」をイメージしており、それを構成する5つの花びらは5市町(鳥取市・岩美町・若桜町・智頭町・八頭町)を表しています。花の形は愛(郷土愛)と誇りを象徴するハート型とし、茎はパイプ役としてのJCの存在をモチーフにしました。
- 花の中心部分は鳥取JCを含めた連携を意味しながら、光の輪＝「環光のまち因幡」、3つの花粉＝「環光のまち因幡」を実現する3つの政策を意味します。
- 鳥取JCが今後「環光」というテーマのもと、未来に向かって躍進(飛躍)しているデザインとしました。
- カラーは環境をイメージするグリーン、未来(夢)をイメージする光色とJCカラーのブルーで構成しました。

### 創立50周年記念大会コンセプト

1. 半世紀の歩みと明るい未来を目指して、「環光のまち因幡」推進運動をコンセプトに創立50周年記念大会を開催いたします。
2. “人と人の環”を大切にし、地域の誇りが“未来への光”となるように「環光のまち因幡」推進運動を発信する舞台として、創立50周年記念大会で表現していきます。

# 記念式典

日時:2009年5月9日(土) 15:00~

会場:とりぎん文化会館 小ホール



## 【概要】

「環光のまち因幡」推進運動を大会コンセプトに新運動ビジョンの具体的な事業内容の発表や物故OB会員追悼、ご来賓挨拶、スポンサーJCへの感謝状贈呈、歴代理事長紹介を行い、今後の社団法人 鳥取青年会議所への理解を更に深めて頂ける記念式典を開催致します。

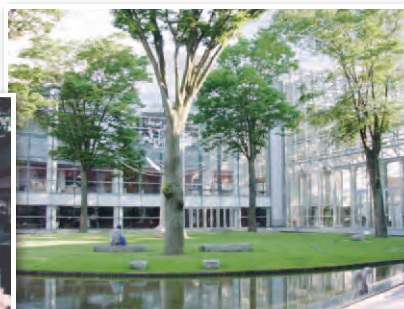
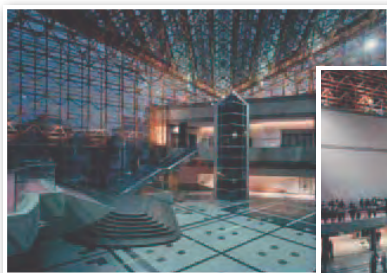
# 記念祝賀会

日時:2009年5月9日(土) 18:30~

会場:とりぎん文化会館 フリースペース

## 【概要】

スローフードにこだわった因幡の食や環境に配慮した運営、そして音と光と映像の演出で大会コンセプトである「環光のまち因幡」推進運動を祝賀会で表現してまいります。因幡地域に50年間活動してきた誇りと感謝を祝い“おもてなし”の心を持って記念祝賀会を開催致します。





# 記念講演

日時：2009年5月9日(土) 17:00～

会場：とりぎん文化会館 小ホール

環境ジャーナリスト  
フリーアナウンサー  
地球環境スーパーバイザー  
講師：村田佳壽子氏



演題：「環境と経済が好循環するまちづくり」

## ☆～村田佳壽子 Profile～☆

ワールドウォッチ研究所 日本副代表  
＜アメリカのオバマ大統領の「グリーンニューディール政策」プレーンであるレスター・ブラウン博士が創設、名誉会長を務める環境問題のシンクタンク＞

東京農工大学大学院非常勤講師、(社)環境科学会理事、日本環境ジャーナリストの会副会長、ISO14000 認証登録判定委員、(財)コカ・コーラ教育・環境財団評議員他多数。  
☆ディスカバリーチャンネル毎週土曜日 午後 10:50～『村田佳壽子の今から始めよ、家エコ』出演中。

### 【経歴】

東京都出身  
桜美林大学大学院国際学研究科修士課程修了（生態系保護論専攻）。  
国際学修士号取得。  
専修大学文学部心理学科（性格心理学専攻）卒業。  
元文化放送専属アナウンサー。  
89年から環境ジャーナリスト。  
91年に筑紫哲也氏、立花隆氏らと日本環境ジャーナリストの会設立。  
93年環境庁国立環境研究所客員研究員。  
99年新潟県上越市環境担当副市長等多数歴任。

副市長としての行政経験を生かして、テレビ出演や監修、自治体の委員、企業アドバイザーなど多方面で活躍。

### 【著書】

「つながるいのち」（山と溪谷社）  
「中小企業のためのISO14000」（フォレスト社）他

### 【概要】

記念式典・記念祝賀会の間に環境ジャーナリストであり元新潟県上越市環境担当副市長の村田佳壽子氏を講師としてお招きして、「環境と経済が好循環するまちづくり」をテーマに記念講演を開催致します。地域の自然環境や環境保全活動が経済と好循環するまちづくりについて、皆様に分かりやすく理解して頂けると幸いです。

# (社)鳥取青年会議所創立50周年 鳥取JCミュージアム

日時：2009年5月9日(土)～10日(日)

会場：とりぎん文化会館 展示室

## ■歴代理事長パネル展

<p>1959 昭和34年</p>  <p>初代理事長 <b>金田 文夫</b> 副理事長 浜崎 芳宏 真崎 寿一 会員数 47名</p> <p>主な事業 7月25日 設立総会 4月19日 沿革展発表式 幹事協議会</p>  <p>主な出来事 ハワイ、アメリカの50州を州に単位 専攻学部制(現天童) 日本海テレビNHKテレビと鳥取県民</p>	<p>1960 昭和35年</p>  <p>2代理事長 <b>金田 文夫</b> 副理事長 浜崎 芳宏 池内 勝信 会員数 55名</p> <p>主な事業 交通博覧会、車社博覧会 和道博覧会との関係</p>  <p>主な出来事 クヌギがコンクリートで建てられた だっこちゃん博覧会 鳥の卵(セキヤ)と鳥の卵(卵)の展示</p>	<p>1961 昭和36年</p>  <p>3代理事長 <b>浜崎 芳宏</b> 副理事長 近藤 弘司 池内 勝信 会員数 59名</p> <p>主な事業 鳥取県ニュース発行 第一回少年野球大会 海の子、山の子女校 第一回県民のつどい</p>  <p>主な出来事 世界初の有人宇宙船 国内空路ジェット機 第一回鳥取まつり開催</p>	<p>1962 昭和37年</p>  <p>4代理事長 <b>浜崎 芳宏</b> 副理事長 坂尾 裕正 山根 幸男 会員数 80名</p> <p>主な事業 中継車4台以上の交差点 アクリル工芸展 交通安全協議会 県内職業野球大会</p>  <p>主な出来事 キューバ危機 東洋郵船船団の17万人都市 鳥取県庁落成 山崎一太郎(スズキ)と鳥取県民</p>	<p>1963 昭和38年</p>  <p>5代理事長 <b>山根 幸男</b> 副理事長 中尾 喬一 西尾 昌之助 会員数 156名</p> <p>主な事業 交通安全協議会 第一回鳥取県少年野球大会 日本交通博覧会 県内職業野球大会</p>  <p>主な出来事 クヌギ一人旅博覧会 北田博覧、秋の自由化記念 山崎博覧、国立公園に認定</p>	<p>1964 昭和39年</p>  <p>6代理事長 <b>坂尾 裕正</b> 副理事長 中尾 喬一 三宅 金延 会員数 165名</p> <p>主な事業 両宮ターミナル建設アンケート 山の子どもへの招待</p>  <p>主な出来事 キングダム、ヘルム博覧会 東京オリンピック 鳥取市と秋田県、秋田県博覧会</p>
---	--	---	---	--	---

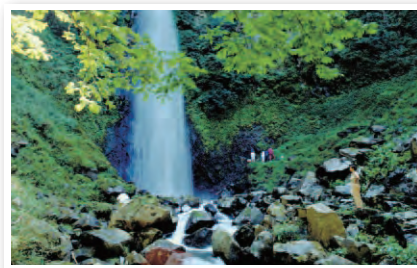
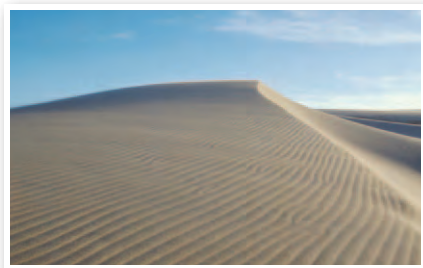
## ■鳥取市・釧路市姉妹都市 40周年記念企画展



※平成15年に製作されたものです。

協力：鳥取市歴史博物館  
やまびこ館

## ■因幡の歴史の風景





(社)鳥取青年会議所 創立50周年記念事業

「環光のまち因幡」推進運動

かんこう

久松公園

# 芝生化 進行中!

人と人との環。未来への光。緑あふれるまちへ

鳥取城跡地「久松公園」を緑溢れる環境へと進化させます。

子どもたちを育み、守り、笑顔を生む

緑と生きる美しい鳥取を、もっともっと、広げよう。

全国が注目!  
「鳥取方式」

低コストで  
維持管理が容易な  
ポット苗移植法です

「久松公園」芝生化体験：ご家族で地域で学校で、ぜひご参加ください

[芝生移植作業] 2009年6月6日(土) 9:30~11:30 [芝刈り作業] 2009年7月12日(日)~11月29日(日) 日曜日8:00~9:00

お問い合わせは下記まで



(社)鳥取青年会議所事務局

<http://torijc.main.jp>

鳥取市本町3丁目201鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル4階/因幡ビジョン特別委員会(委員長)今井敏明

TEL 0857-24-1638

FAX 0857-24-1608

## ごあいさつ



社団法人 鳥取青年会議所  
理事長

# 水野 由久

社団法人 鳥取青年会議所は1959年に社団法人 米子青年会議所をスポンサーに仰ぎ、日本で156番目の青年会議所として発足しました。それ以来、因幡の地域住民の方々や多くの先輩諸兄に支えられ、本年創立50周年を迎えることとなりました。これを期に、これまでに社団法人 鳥取青年会議所にご支援を頂いた方々へ感謝の気持ちを表すと共に、これから新たな歴史を創っていく決意を表明するために、創立50周年記念誌を発行させていただきます。

1959年の発足以来、社団法人 鳥取青年会議所の数々の活動は今の因幡地域を形作る上で、欠かすことのできないものであり、それを先見の明をもって実行してきたことは周知の事実でございます。しかしながら、現在は100年に一度という大不況の中にあり、不安定な経済情勢、雇用情勢は深刻さを更に深めております。環境問題では地球温暖化問題をはじめ多くの問題が横たわり、次世代に豊かな自然溢れる地球を残すことが困難になりつつあります。2009年度のスローガンは「未来の笑顔は我が責務なり」であります。我々は、未来の因幡を担う子供達が心の底からこのまちに生まれてよかったと思える為に、利他の精神をもって、努力していく所存です。

また我々は、近い将来に到来するかもしれない道州制の時代を見据え、世界の中で因幡地域にしか担うことのできない役割を見つけ、これを武器にして特色ある地域を創造していかなければなりません。本年より10年間の運動ビジョンとして「環光のまち因幡」推進運動を策定致しました。因幡の豊かな自然環境と因幡の特徴を活かした環境保全活動を観光資源として活用し、人と人の環を広めながら「環境」と「経済」が好循環するまちをつくる運動です。この運動ビジョンを我々のまちづくりの基軸として、長期的かつ発展的なまちづくりを展開していきます。

最後になりましたが、創立50周年記念誌の発行にあたってご協力をいただきました先輩諸兄をはじめ多くの方々に感謝を申し上げますと共に、今後とも社団法人 鳥取青年会議所の活動にご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## ごあいさつ

1959年に社団法人 鳥取青年会議所は全国で156番目の青年会議所として、社団法人 米子青年会議所のスポンサーにより設立されました。鳥取県東部地域「因幡地域」を活動地盤として、明るい豊かな社会を創造すべく多くの先輩方のご尽力により、様々な活動と運動展開を行ってまいりました。そして本年、当青年会議所は創立50周年を迎えるに至りました。これもひとえに、地域の皆様を始め、行政各所、友好団体、各地青年会議所の皆様からご理解とご鞭撻を賜ってまいりましたおかげで御座います。心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、半世紀の節目である創立50周年記念大会を開催するにあたり、新たな運動ビジョンである「環光のまち因幡」推進運動を大会コンセプトに昨年より準備を邁進してまいりました。

歴史を築いてこられた先輩方への感謝の気持ちと敬意を持ち続け、“人と人の環”を大切に、地域の誇りが“未来への光”となるように、創立50周年記念大会で「環光のまち因幡」推進運動を発信する舞台としていく所存で御座います。

記念すべきこの年を新たな運動の礎となる活動転換期と捉えるとともに、創始の時代から継承されてきた「まちづくり」への情熱と、因幡の心は一つである願いを胸に刻み、今後もその大切さを私たちは次世代へと継承してまいります。そんな想いを形として表現したく、本記念誌を発行する運びとなりました。多くの方々に「まちづくり」活動を行う上での大切なツールとして使用して頂ければ幸いです。混沌とした21世紀の時代だからこそ、日々諦めることなく挑戦していくことが求められ、そして青年として元気な行動力が明るい時代の幕開けを迎える起源だと考えております。私たちは新運動ビジョンである「環光のまち因幡」推進運動は新たな「まちづくり」活動の基軸として展開してまいります。

最後になりますが、今後とも私たち社団法人 鳥取青年会議所に対して、皆様からの変わらぬご支援とご協力を賜りますことを心からお願い申し上げます。創立50周年記念大会のご挨拶とさせていただきます。



社団法人 鳥取青年会議所  
50周年実行特別委員会 委員長

山根 康穂

# 祝 辞



鳥取県知事

平井 伸治

社団法人 鳥取青年会議所創立50周年を心からお喜び申し上げます。

社団法人 鳥取青年会議所は、昭和34年の創立以来、「修練・奉仕・友情」の三つの信条のもと、次世代の担い手として、また、地域のリーダーとして自己修練に努められるとともに、若者らしい斬新な発想と行動力をいかに発揮した様々な活動を通じ、地域社会の発展に大きく貢献されています。これは、歴代の理事長を始め、会員の皆様の情熱とたゆまぬ御尽力のたまものであり、深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます次第です。

現在、米国発の世界同時不況の波が我が国を襲い、100年に一度と言われる危機的状況に陥っており、県内においても経済及び雇用情勢が厳しさを増しているところです。

県としては、こうした厳しい環境下にある今こそ、県民の皆様の夢と希望を盛り込み策定した「鳥取県の将来ビジョン」に基づき、今後の鳥取県の持続可能な発展及び希望あふれる「鳥取新時代」の実現に向けて、県民の皆様とともに力強く踏み出していく所存です。

本年度は、目前に迫った中国横断自動車道姫路鳥取線の鳥取県内区間の開通など、地域経済を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。是非、この転換期をチャンスと捉え、ここ因幡地域に住まう皆様には、自信と誇りの持てるまちづくりに向けて、大きく躍進されることを念願しています。

貴青年会議所におかれましても、今後とも地域活性化の担い手として、「明るい豊かな社会」の創造に向け、新たな運動ビジョン「環光のまち因幡」推進運動を展開されまして、大いに発展されることを期待しています。

終わりに、創立50周年を契機として、社団法人 鳥取青年会議所のますますの御発展と会員皆様の御健勝、御活躍をお祈りしましてお祝いの言葉とします。

# 祝 辞

社団法人 鳥取青年会議所が創立50周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

社団法人 鳥取青年議所は、昭和34年の結成以来、同じ志を持たれた若者が結集し、地域の活性化に邁進してこられました。最近では、「鳥取砂丘イリュージョン」「しゃんしゃん祭」等のまちづくりイベントの開催や参加、「環光のまち因幡」推進運動などの地域貢献活動、「青少年育成」「社会参画の推進」など様々な活動を積極的に展開され、地域の活性化、地域力の向上に大きな役割を果たしてこられました。これもひとえに歴代理事長並びに関係各位のご熱意とご尽力の賜と深く感謝と敬意を表する次第であります。

さて、鳥取市が山陰初の20万都市としてスタートしてから満4年が経過しました。合併前の9市町村の歴史・文化・まちづくりを継承し、健全な財政基盤づくりと地方自治新時代にふさわしい自立した自治体を目指して取り組んでいます。また、今年は市制施行の120周年であり、鳥取市にとっては大きな節目の年です。将来に向けて発展の年とするため、皆様とともに諸問題の解決に取り組んでいきます。

東部地域の悲願である鳥取自動車道は、2009年度の利用開始に向けて、工事は順調に進んでおり、鳥取もいよいよ高速時代を迎えることとなります。この鳥取自動車道の開通にあわせて「2009鳥取・因幡の祭典」を実施いたしますが、この祭典は「民間主導型」の実行委員会を主体として、様々な分野で新しい因幡の文化を創出し、地域づくり・まちづくりを行い、地域経済の活性化に繋げていきたいと考えています。この祭典には鳥取青年会議所の皆様にも中心となってご活躍いただいております。

最後に、創立50周年を契機として、社団法人 鳥取青年会議所が組織力と行動力をさらに発揮され、本市地域社会の発展の原動力として、引き続き、大いに貢献されますことを期待しつつ、会員各位のますますのご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



鳥取市長

## 竹内 功

## 祝 辞



岩美町長

### 榎本 武利

社団法人 鳥取青年会議所が昭和34年に47名の士によって「明るい豊かな社会を目指し」「郷土への愛と奉仕」を理念に誕生し、このたび大きな節目となる創立50周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。心からお慶び申し上げます。

この半世紀の間、日本には、戦後の復興、高度経済成長、バブル崩壊など大きな変化がありましたが、いつの時代も青年会議所は、若者らしい発想と行動力で地域社会の発展のため様々な事業を展開してこられました。そしてその中では多くの気づきをいただいた様に思います。

岩美町では「まちづくりはひとづくり」の考えのもと、子ども達が「教育のまち岩美」実現に向け取り組んでいるところですが、今年のスローガン「未来の笑顔は我が責務なり」は、正に町の方向性と合致した言葉であります。岩美町としても「因幡(岩美)に生まれて良かった」と思えるまちづくりに積極的に取り組みたいと考えています。そして、これまでの先人が築いてきた50年を礎とし、共に連携し更に大きな50年を築き、次世代へ繋ぎましょう。

貴会議所が50周年を契機として益々ご発展・ご活躍されますことをご祈念申し上げお祝いの言葉いたします。

## 祝 辞



若桜町長

### 小林 昌司

社団法人 鳥取青年会議所におかれましては、本年、創立50周年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。

半世紀にわたり、明るい未来を目指して「環光のまち因幡」推進運動をコンセプトに、歴史を築いてこられた先輩の皆さんの活動の賜だとも思います。

貴青年会議所は、結成以来50年がたちましたが、この間極めて順調なご発展を遂げられ、奉任の理念に基づいて、青少年の健全育成、鳥取因幡地方の新しい国造り等に邁進され、鳥取東部地区に確固たる基盤を築いておられますことは、まことに慶賀にたえないところであります。

さらには、「環光のまち因幡」推進運動の三つの政策として「因幡グリーン政策」、「究極の田舎政策」、「新生・鳥取砂丘の政策」等、頼もしい限りの政策をかかげ、さらなる発展と、新しいスタートをきられますことは素晴らしい、住民の皆さんも大きな期待を寄せていると思います。

鳥取県東部の皆さんのご支援、ご協力によりまして、目ざましい発展を遂げておられますこと、ここに謹んで創立50周年をお祝いし、将来なお一層のご活躍を祈念し、鳥取因幡地方の経済、文化の発展に貢献して下さいますようお願い申し上げます。

また、会員会位のご健勝、ご多幸をお祈りしまして、私のお祝いの言葉と致します。



## 祝 辞



智頭町長

### 寺谷 誠一郎

創立50周年、おめでとうございます。綱領にあるように「青年としての英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな社会」を築いてこられたメンバーに心からお祝い申し上げます。

一口に50年と申しますが、様々な波乱の中での活動は、並々ならぬ会員の汗と涙の努力の賜とお察しいたします。しかしながら、すべての活動が苦悩の連続かどうか？私もOBの端くれとして、仲間との出会い、喜び、楽しみ、二日酔い等々、他にないJCイズムの中で育てて頂きました。

現在、智頭町長をしておりますが、実は今の町づくり戦略は、若き日のJC活動から学び、参考にしたことがほとんどです。「若者はすべてにオールマイティでも堅実でもない。物事を恐れない、その勇気こそが若者の特権でもあり夢でもある。JCこそが40歳までに与えられた若者最後の、多少無謀でも許される天から降った贈り物なのかも知れない。いやそうに違いない。」と勝手に思いこみ、賞味期限切れの65歳のおっさんが若者気取りで町づくり戦略を練っている今日のごごろです。

若者は若者らしく、許される範囲の中で、少々ヤンチャでもいい。もっと高く、深く、大きく、広く羽ばたいてほしい。JCだからできるヤンチャの世界で。

## 祝 辞



八頭町長

### 平木 誠

創立50周年、おめでとうございます。

貴会議所は、人と人の環を大切にされ50年間歩み続けてこられました。この長い期間、因幡の将来を思い多方面にわたった活動に対し心より敬意を表します。

近年、社会経済情勢はめまぐるしく変化しております。その変化に対応すべく、地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出等、地域活力の再生を図ることが重要な課題となっております。

そのような社会環境のなか、貴会議所では、「環光のまち因幡」を推進運動の一つに「究極の田舎政策」を掲げ、活動されておられます。関西圏との交流をとおして、自然いっぱいの因幡地域で、農業体験や田舎体験をしていただき、脱ストレス生活を提供し、将来的に因幡に定住・就業していただくとする運動であり、更に推進していただきたいと思います。

昨年10月、貴会議所と八頭町農業青年会議のメンバーが一緒になって農業体験「鳥取ワーキングホリデー」を八頭町内で開催していただきました。大阪市をはじめとする全国各地からたくさんの方が3泊4日の日程で来町され、米、果樹、野菜の収穫などを体験していただいたところで。

この運動が、因幡全体に広がっていき、鳥取・因幡の祭典ともマッチングして鳥取・因幡の本当の良さを全国に発信できますことを期待しております。

今後とも、貴会議所と一層の連携をとりながら、お互いに発展してまいりたいと念願しております。

# 祝 辞



社団法人 日本青年会議所  
会頭

安里 繁信

青く澄み渡る日本海、緑豊かな山々と壮大な鳥取砂丘を背景に人と自然の営みを守り、誇り高き地域の文化を継承する民が集う鳥取。この地において、社団法人 鳥取青年会議所は1959年に47人の誇り高き志を持った先輩方によって創立され、今日に至るまで変革の能動者として市民の先頭に立ち、地域社会の発展の為に尽力されてこられました。ここに貴青年会議所が創立50周年を迎えられましたことに心よりお祝いと感謝を申し上げます。

創立50周年という節目の年、貴青年会議所は水野由久理事長のもと、「～未来の笑顔は我が責務なり～」の実現に向けて、将来の因幡を背負う子供達に勇気と誇りを与える力強い活動を展開されていることと確信しております。現役のJCメンバーの皆様の献身的な活動はもとより、貴青年会議所の根幹を築いてこられた先輩方の長きに亘る地域発展を目指した活動に対して心から敬意を表すると共に、記念すべき50周年を迎えられた貴青年会議所の活動に対しても大なるご期待を申し上げます。

本年度、社団法人 日本青年会議所はつよい国民性に育まれたやさしい国家「真日本建国」に向けて、我々JEYCEEのひとりひとりが日本国に誇りを持ち、強靱な思想と哲学を身にまとい、現実から目をそむけない確固たる信念を持った青年経済人として明るい豊かな社会を築き上げる運動を展開してまいります。今の我々にとって最も大事なことは己を律することであり、知識のみならず確かな見識と揺ぎない信念をもって自らの生き方を社会に示しつつ、お互いを賞賛し認め合う「アドマイヤー型社会」の実現こそが、真に誇れる国づくりへ繋がると確信しております。

創立50周年を迎えられた社団法人 鳥取青年会議所の皆様が、水野理事長のリアリティーと説得力のあるリーダーシップのもと、地域に影響力のある事業を進取に実施すると確信し、貴青年会議所の皆様がJCプライドにかけ、明るい豊かな社会の実現に向けてご活躍されることをご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

## 祝 辞



社団法人 日本青年会議所  
中国地区協議会 会長

## 吉村 武大

社団法人 鳥取青年会議所が50周年を迎えられること、2009年度中国地区内約2300名のメンバーを代表し、心よりお祝い申し上げます。この節目の年を迎えるにあたり、50周年を迎えるための準備などの過程で、先輩諸兄の鳥取JCへの思いや担いを十分理解するきっかけも得ることができたかと存じます。現役会員の皆様が、改めて鳥取JCとしてどのような組織に発展し、どのような形でまちに必要な団体へと成長するか、次代の貴青年会議所の社会的存在意義を見つめ直す機会となりますことをお祈り申し上げます。

先達は、戦後復興しようとしている日本や鳥取を憂い、少しでも明るい豊かなまちにしようと、鳥取JCを設立されたのだと思います。先輩達のおかげで今の鳥取があることを改めてこの機会に認識いただき、ぜひとも、今一度創始の精神に立ち戻り、将来の子供たちの為に、鳥取を更なる明るい豊かなまちへとリードする団体として、今後ますます発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

## 祝 辞



社団法人 日本鳥取青年会議所  
中国地区鳥取ブロック協議会 会長

## 岡崎 博紀

社団法人 鳥取青年会議所が創立50周年を迎えるにあたり、鳥取ブロック協議会を代表して心より御祝いを申し上げますとともに50年という半世紀に渡り因幡地域発展のために行政、市民の皆様と共にご尽力された先輩諸兄、現役メンバーに対し深く敬意を表します。

数々の歴史の中でも20年以上前から提唱された鳥取自動車道の整備は、本年に開通を迎えることで現実となったことは、地域間連携や経済発展に深く寄与するものであり、JC運動として高く評価されるものがあります。また、40年以上の継続事業である若草学園ひな祭り交流会や献血推進活動では、社会福祉貢献として地道な努力の結晶であり、JAYCEEの資質に溢れる力を感じます。今後も時代の先を行く青年会議所として、勇気ある行動と卓越したリーダーシップで、積極果敢な挑戦を期待しています。

「ここに生まれて本当に良かった」と、因幡市民として心から思える終の住みかの実現を目指して、今後益々の貴青年会議所の飛躍と先輩諸兄並びに現役メンバーのご活躍を祈念申し上げお祝いの言葉とします。

## 祝 辞



社団法人 米子青年会議所  
理事長

### 福間 啓介

社団法人 鳥取青年会議所が創立50周年という節目の年を迎えられましたことをスポンサーJCとして心より御祝い申し上げます。

1959年に設立されて以来、変化する社会情勢の中における魁の団体として積極果敢に活動を展開され地域の発展に貢献された歴代理事長をはじめとする諸先輩方、会員の皆様のご尽力、そしてその伝統に対し深く敬意を表する次第です。

さて創立50周年にあたり貴青年会議所は「環光のまち因幡」推進運動を掲げ、新たなスタートをされることとなりました。創立40周年時に起草された「因幡市民憲章」の信念を受け継ぎ、地域の特徴を見つめ直し、人と人の環をもって地域への誇り、活性化へと繋げるという我々青年会議所の目指す「明るい豊かな社会」づくりを体現する運動ビジョンに対し深く感銘を受けるとともに、貴青年会議所の地域の Opiniオンリーダーとしてのますますの御活躍を確信するものです。

このたびの創立50周年を契機とされ、社団法人 鳥取青年会議所が水野理事長の掲げられた「～未来の笑顔は我が責務なり～」のローガンのとおり、次世代を担う集団としてますますの御発展を祈念申し上げ、御祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



社団法人 釧路青年会議所  
理事長

### 本間 弘人

遠く離れた地にて志を同じく活動・運動に邁進する、社団法人 鳥取青年会議所が創立50周年を迎えるにあたり、心よりお慶び申し上げますと共に、創立以来、青年会議所の基本理念である『明るい豊かな社会の創造』を目指し、多くの汗を流して来られました先輩諸氏の皆様に対しましても、その労苦に深く敬意を表します。

貴青年会議所は、誇れるまち因幡の実現へ向け今日まで活動され、本年度は、『未来の笑顔は我が責務なり』のローガンの下、因幡の地では、その存在価値は無くしてはならないものであると考えます。そのような志高き貴青年会議所と姉妹JCであることは、我々社団法人 釧路青年会議所にとって誇り高いことであり、記念すべき創立50周年を祝福出来る喜びを感じております。

さて、100年に一度の大不況と言われる現代社会は、まさに混沌とした状況であり、我々に求められる期待も大きく、更にはスピードも要求される時代となりました。この様な時代だからこそ、我々は自らを律し、JC活動・運動にプライドと確固たる信念を持ち、実践し続けることが必要とされ、その積み重ねこそが大きな力になると確信しております。今後も共通理念の『明るい豊かな社会の創造』を目指し、姉妹JCとして、英知と勇気と情熱を持って共に邁進して行きましょう。

結びになりますが、社団法人 鳥取青年会議所が今後も更なる飛躍を遂げ、因幡のまちと共に御発展されますことをご祈念申し上げ、創立50周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

## 祝 辞



1991年度受賞  
砂かけフォーラム座長(当時)

## 道上 正規

社団法人 鳥取青年会議所、創立50周年おめでとうございます。半世紀にわたって、地域の課題や問題を若い世代の感性から見つめ解決にご努力され、地域の発展に貢献されましたことに心より敬意を表したいと存じます。私は、平成2年から3年にかけて、高見第二政策委員長らと一緒に「砂かけフォーラム」に係わってきました。確か平成3年9月に、「砂丘シンポジウム」(一砂と人間、そして未来-)を開いて、今は亡き筑紫哲也さん達をお招きし、砂丘の草原化について議論したのが昨日のように思い出されます。これからも地域のオピニオン集団として活躍されますことを心より祈念申し上げます。

## 祝 辞



1992年度受賞  
こどもまつり実行委員会事務局(当時)

## 山下 眞一郎

こども達に自然の中で思いきり汗を流して、楽しく学ぶ「遊び」は無いものかと青年会議所のメンバーの方々々と議論を重ね「鳥取こどもまつり」が誕生しました。

青年会議所・協賛団体・地域のサークル団体と一緒に実行委員会を立ち上げ、時間がたつのも気が付かないほど幾度も会合を積み重ね、時には酒の宴をもうけるなどして、メンバーの絆も益々深くなってまいりました。

33年前、幼児だった我が子も今では母親となり、こどもまつりの歳を我が子の成長とおきかえて考え長い歳月を感じます。当時夢中に取り組んだ、この「鳥取こどもまつり」がここまで大きく成長してくれたことを私は誇りに思います。又一緒に汗を流した仲間と再会した時、懐かしく話しの華になる思い出を沢山頂いた事に感謝しています。

これからも、社団法人 鳥取青年会議所の方々のご発展と、こども達に愛されるまつりが続きますようお祈りいたします。

## 祝 辞



1996年度受賞  
因幡獅子の会 会長

## 青木 齊

社団法人 鳥取青年会議所の創立50周年を迎え、心からお祝い申し上げます。1995年当時、因幡の麒麟獅子は現在のように脚光を浴びるものではありませんでしたが、「麒麟獅子フェスタ」という多くの市民や各保存会が参加しやすい手法を用い、JC、行政、まちづくり団体と共創し、人づくりとしての活動をつなげてきた結果、因幡獅子の会を発足することが出来ました。今では国内外との交流も深め、地域の伝統文化として誇りを持って活動をしています。

今後も、JCとともに、因幡に生まれた子供達が大人になった時に、「因幡に生まれて良かった」と思うことができるまちづくりに少しでも麒麟獅子舞で協力をしていきたいと思っています。

最後に、鳥取青年会議所の皆さんが、さらなる飛躍を遂げられることを祈念するとともに、皆様の御健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

## 祝 辞



1999年度受賞  
砂かけフォーラム座長(当時)

# 吉田 幹男

鳥取青年会議所の創立50周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。あなた方の半世紀にわたる歩みは、地域社会での役割を確実に高めています。今後も圏域住民や経済界、自治体の期待度は益々強くなると思います。そういう意味で掲げておられる基本方針に沿って言えば、「地域に影響力を持つ組織」については単なる提言団体ではなく、自ら主体的な役割を果たす組織であっていただきたいと思います。「会員にとって誇りの持てる組織」では全会員が共有する自己実現を果たしたとき確立されると思います。「長期的かつ発展的な活動」は今後のJC活動に最も求められることで、将来への展望を視野に入れた事業への取り組みを期待します。

## 祝 辞



2000年度受賞  
とっとり福祉MAPづくり隊  
副隊長(当時)

# 藤本 実咲

この度は、創立50周年を迎えられたこと心より祝福申し上げます。  
とっとり福祉MAPづくり隊(H10～14年)は、障害をもつ人にも積極的にまちの中へ出てもらいたいと、鳥取市内を中心に店舗他のハード面とソフト面が車椅子を使用する人にどの程度対応出来ているか等をまとめ、1冊の「福祉MAP」を制作しました。社団法人 鳥取青年会議所の皆様には、その活動を支え、又、様々な福祉活動へ参加する機会を与えて頂きました。  
当時から中高生が中心だった私達にとってこの活動は、近くに暮らす誰かの役に立てるというだけでなく、私達自身もまちへ出て、普段交流の無かった世代・行動範囲・学校の違う人々とのふれあいの機会を得る事が出来るという素晴らしいものでした。活動中は多大なお力添えを頂き、本当に有り難うございました。  
これからも地元を元気にする様な活動の"環"を鳥取中に巡らせていって下さることを願っております。  
簡単ですが御祝いのあいさつとさせていただきます。

## 祝 辞



2007年度受賞  
国立大学法人 鳥取大学 地域学部教授

# 永山 正男

新年祝賀会で理事長の演説を聞き、「正直な言葉の力強さ」というフレーズを思い出し、同じくその演説に感心していた市長に、「彼はまだ言葉の力を信じているようだ」と言ってしまいました。JCで聞く言葉に力強さを感じることがあるのは、それが正直な言葉であるからだと思っています。自分たちで考え、それを行おうとしている言葉であって、その背景を憶測する必要がない。端的に位置づけられた行動であるからこそ、結果がどうであれそれが教訓となる。そうした「言葉の力」に支えられたJCであり続けてほしいと願っています。

47名の志高い仲間達によりここに因幡地域に鳥取青年会議所は誕生した。



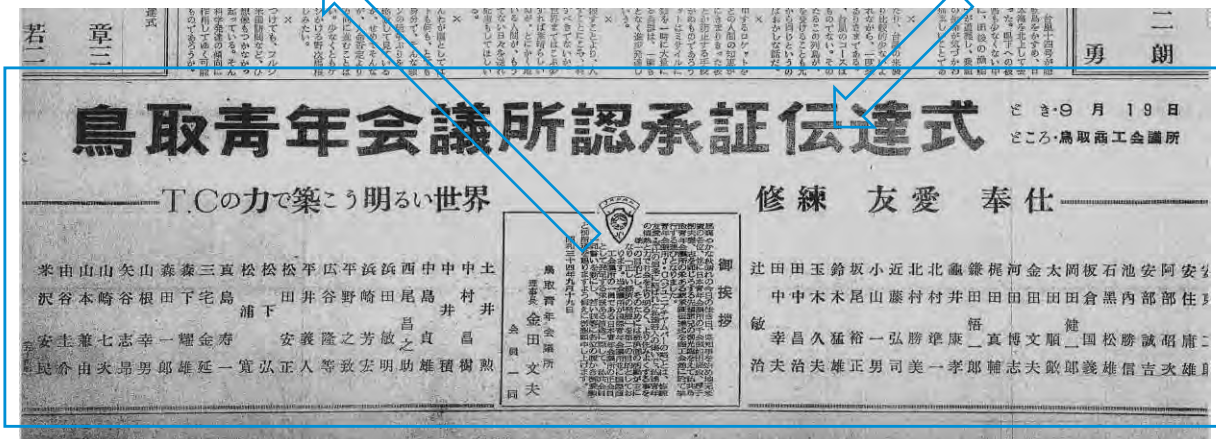
認承証伝達式の模様を伝える日本海新聞(昭和34年9月20日朝刊)



金田文夫初代理事長による挨拶



日本海新聞(昭和34年9月19日朝刊)



鳥取青年会議所認承証伝達式の開催を伝える広告が一面を飾った。

## 因幡のはじまり

古代の奈良時代、天皇を中心とした政治のしくみ(律令国家)が出来あがった当時、全国は60余りの国に区分され、今日の鳥取県は因幡国と伯耆国の二つの国で出来ていました。60余りの国は、畿内と七つの道に行政区域が分けられ、因幡国や伯耆国は、京都府北部、兵庫県北部、島根県と一緒に山陰道とされていました。それぞれの国には国府が置かれ、因幡国の国府は現在の国府町に置かれ、『万葉集』で有名な大伴家持が赴任しました。また、有名な『因幡の白兔』の話は『古事記』に記されています。

## 因幡のあゆみ

安土・桃山時代、天下統一を目指す織田信長の命により、羽柴(豊臣)秀吉が毛利輝元に攻め入り、鳥取城へも軍を向け、城主である吉川経家と対峙しました。経家は、秀吉三万人の軍勢と兵糧攻めに対し、援軍も無く、飢餓状態まで戦いましたが、人々の事を考え、自分を含めた3守将の自害を条件に他の者を助けるとの約束を秀吉と交わし、降伏し自害しました。経家の戦国武将としての心意気は後々まで語り継がれています。また、鹿野城主亀井茲矩は、新田開発の振興や中国などとの貿易を盛んに行いました。

江戸時代に入り、岡山城主であった池田光仲が鳥取城主となり、以後、幕末までの238年間、池田家が鳥取藩(因幡・伯耆)を統治しました。この時代の因幡の代表的な文化の一つとして“麒麟獅子舞”が上げられます。麒麟は古くは中国より聖獣とされており、日光東照宮にも奉納されています。その麒麟は神の化身として因幡各神社に伝わり、人心を一つにまとめ、因幡の発展へと繋げました。現在も因幡各地域で“麒麟獅子



池田 光仲



樗谿神社獅子

舞”は行われ、平和と繁栄という人々の願いを込めたものとして行われています。鳥取藩では治水や用水路の開削技術が進み、新田開発も盛んに行われ、耕地も収穫される米も増えました。さらに、郡家村の安藤伊右衛門が丘陵地の開墾のための用水路を築き、船越作左衛門が黒松を植林して砂丘の防砂林で畑を開墾するなど、多くの人々による不屈の努力によって今日の作物が豊富な因幡が築かれました。また、当時は木綿・緋・因州和紙の生産も盛んで、特に因州和紙は伝統産業として現在も伝わっています。因幡地方の土地は原料の楮栽培に適し、生産に必要な清澄な川が多い為、御用紙(藩で特別に使用される紙)の有名な産地として全国に知られました。

現在も記念碑の残る鳥取藩校「尚徳館」は、1757年、全国的にかなり早く創設されました。創設趣旨には「昔の事柄をお手本とし、正しい生き方を身につけよ」「日常生活の中で目上の者を敬い、年寄りを大切にせよ」などがあり、12代藩主池田慶徳は「文武併進」を教育目的に学校を拡張しました。幕末の鳥取藩を大きく動かしたのは藩校尚徳館で学んだ藩士たちでした。

## 鳥取県の誕生・廃止・再置

1868年7月、江戸は東京と改められ、9月には明治と改元されました。明治政府は中央集権化を図るため、廃藩置県を断行し、1871年7月、鳥取県が誕生しました。しかし、1876年8月31日、鳥取県は廃止され、島根県に併合されました。併合には多くの県民の反対を呼び、再置の声が上がり、運動へとつながりました。鳥取県再置運動はうねりとなって様々な活動と共に展開し、やがて山県有朋の視察、伊藤博文の「鳥取県再置



案」提示を経て鳥取県は1881年9月12日再置されました。以来9月12日は「とっとり県民の日」と定められています。

教育においては明治新政府が学制を公布し、全国に小学校を設けました。6歳になると男女を問わず小学校へあがるようになりましたが、中等教育の機会は女性にとり厳しい状況でした。そんな中、小沢咲を代表とする「鳥取婦人会」が中心となり寄付を集め、1888年「鳥取女子校」(現在の鳥取西高)が設立され、1906年久松幼稚園を設立しました。また、古田貞により「鳥取裁縫女学校」(現在の鳥取敬愛高校)が設立されるなど男女問わず教育の必要性を感じた民意の行動が、まちを変えていきました。全国に先駆けた民芸運動も県民性の特徴が表され、“民芸品”とは、名もない職人たちが創り続けた日用品こそ、やさしさや温もりが感じられ、日々の暮らしを精神的に豊かなものにすると唱え「鳥取民芸美術館」「たくみ工芸店」が設立され、東京へも支店を設立し発信するなど機械化・量産化する日用品に対し一石を投じています。

## 産物と鳥取砂丘

産物では二十世紀梨が日本でも有数の生産地域ですが、当初二十世紀梨は、千葉県松戸市で松戸覚之助がゴミ捨て場から偶然発見し、1904年鳥取市桂見の北脇永治によって鳥取県へもたらされました。当時は黒斑病や気象災害・第2次世界大戦などとりまく環境に悩まされましたが、粘り強く栽培し続け、今では「二十世紀梨といえば鳥取県」と呼ばれるまでになり、財産であり誇りとして定着しています。

鳥取砂丘は日本海に面し、東西16km、南北2kmの日本一の規模で、風が描いた風紋や砂廉などの美しい姿は住民や観光客を喜ばせています。鳥取砂丘は、古くは氷河期より始まり、中国山地の花崗岩が風化し、千代川によって運ばれて出来たものです。4万5千年前、大山の噴火により覆われた火山灰に氷河期の氷が溶け、一旦海になった時も河口に砂が積もり、縄文時代に海が引き始め、現在の砂地を現しました。その時出来た池が現在日本一の湖山池です。第2次世界大戦後、鳥取砂丘は食料増産の為、開発が進められました。しかし、飛砂や水分の保持力が低い砂地での作物栽培

は苦闘の連続でした。1953年、海岸砂丘地帯農業振興臨時措置法を機に、スプリンクラーや農業機械の導入により大きく発展をし、砂丘ラッキョウなどが栽培されるようになりました。砂丘農業の発展のもう一つに鳥取大学乾燥地研究センターがあります。「砂丘造林の父」と呼ばれる原勝教授による垣を張り、黒松とニセアカシアを植える方法は全国に普及し、遠山正瑛教授によるメロン栽培などの研究と実践の成果は世界各国へ発信され、ゴビ砂漠などの緑化運動につながっています。また、1998年アリドームが完成し、世界各地から研究者が集まり、世界の乾燥地の砂漠化を防ぐ研究や事業を行っています。

## 近代化

明治時代、鳥取市に鳥取県庁が置かれ、市制がしかれました。1908年には鳥取駅が開設され、鉄道が京都までつながると、智頭街道や若桜街道が経済の中心となり、市街地が形成されました。その後、洪水(1918年)・地震(1943年)・火災(1952年)と大きな災害に襲われましたが、千代川の水路付け替え、新袋川の増設など粘り強くまちを築き上げてきました。1965年から企業誘致、区画整理、道路の拡張などを行い、1966年の鳥取三洋電機を始めとする工業団地の発展や1978年の鳥取駅高架化に伴う銀行やホテル等の高層ビル建設が進みました。

## 現在、そして、これからの因幡

そして平成の大合併を終え、今度はここ近年、道州制が検討されはじめています。今後ますます、私たちのまちの姿が変わっていくと予想されます。また、様々な課題・問題が山積しています。これは同時に、自主的、自立的、主体的なまちづくりが求められてくることを意味しています。産・官・学・民、みんなの声が反映され、より豊かなまち、明るい社会づくりが推進できるまちをみんなの手で創造していく努力が必要だと思えます。

参考文献  
鳥取県教育委員会 「ふるさと歴史めぐり」  
鳥取市「新しい姿勢を実現するための改革プラン」

※写真は鳥取県立博物館提供



きんさい因幡 鳥取自動車道に乗ってin加西



鳥取砂丘イリュージョンVI



チャレンジウォーキングIN因幡



第2回合宿DE合同演奏会

## 地域間交流・地域経済活性化

人口60万人を切った鳥取県、危機感さえ漂う中、因幡地域は、念願の鳥取自動車道開通を控え、『鳥取・因幡の祭典』の他、交流事業等も各地で活発に行われています。因幡地域の経済の活性化と地域間交流人口の増加を常に願う私達は、鳥取自動車道の開通を見据え、2004年度、因幡地域の自然環境を活かした『青谷スローライフ共創事業』、2005年度、地域の景観を活かした観光政策の発信を目的とした『新因幡「景観」維持再生大作戦』や、2007年度、サービスエリアにて鳥取自動車道と因幡の情報発信を行った『きんさい因幡 鳥取自動車道に乗ってin加西』、2008年度『鳥取版ワーキングホリデー～「感幸地」因幡を目指して～』などの体験交流事業の他、因幡の農産物を広く他地域へと発信し、因幡の農業の可能性を広げていくことを目的とした『地域経済活性化のための農業ビジネス経営塾』等を行ってきました。

## 因幡の誇り発信

2004年度から新たな鳥取砂丘の魅力発信事業として、『砂丘画廊～「想い」を「カタチ」に「カタチ」から「想い」へ～』を開催しました。因幡の宝である鳥取砂丘を「心のマストアイテム」と捉え因幡市民の帰属意識を醸成しました。その後2005年度以降、鳥取砂丘から一時離れ新たな場所から魅力の発信が行われることとなります。2005年度には、新たな魅力の発信として、湖山池一円で『湖山池魅力発見～古くて新しい因幡の宝～』を開催しました。湖山池周辺地域に関わる様々な団体と連携し、歴史・文化遺産、歴史的建物等の観光資源を発掘し、利用法を考え、発信しました。翌年2006年度は、鳥取城(城跡)の財産価値を改めて認識して頂き、自分たちの住むまちに対しての「誇り」と「愛着心」を育てていただくため『因幡「城跡」フォーラム～繋げよう！「城跡」を活かしたまちづくりの輪～』を開催しました。鳥取市長、パネリストを迎え、鳥取城のあるべき姿について活発な議論がなされました。翌2007年度は、例年行われているしゃんしゃん祭を因幡の魅力と捉え、誰でも参加できる祭にしたいという想いから、『第43回鳥取しゃんしゃん祭への参加～因幡市民連～』を企画運営しました。1人でも多くの因幡地域に住む人達に踊り子として参加して頂くことで、地元の祭りに対する愛着心や、自身の郷土の文化への親しみを醸成しました。そして、2008年度には舞台を鳥取砂丘に戻し第6回目を数える『鳥取砂丘イリュージョンVI』を開催しました。冬の夜の鳥取砂丘を舞台に、イルミネーションによる電飾を施し、幻想的な鳥取砂丘を演出し因幡の誇りである鳥取砂丘を広域に発信しました。

## 青少年育成

2004年度に「対話」について考える『三つ子の魂百まで～子どもとの会話から対話～』を開催し講師を招いてコミュニケーションの勉強をしました。2005年度は未来の地域のリーダー育成を行うプログラムとして『チャレンジウォーキングIN因幡』を開催し、子ども達に「生きる力」を体感してもらいました。2006年度は第一回から参画している『第31回鳥取こどもまつり』に実行委員会として参画しました。2007年度は新たな継続事業として異年齢交流事業、『合宿DE合同演奏会～奏でよう！おもしろいのハーモニー～』を開催しました。高校生と小学生が通学合宿を通して寝食を共にしおもしろいの心を学びました。2008年度は2007年度の事業を継続し合同演奏会の場合を複数用意し、共通の目的に向かって合宿や練習を重ねおもしろいの心をより醸成することができました。またマスメディア等でこの事業を発信し地域やPTA、教育関係に提言することができました。近年の活動として、このように子どもたちに何が必要かをしっかり考え、未来のリーダー育成に努めています。

## 環境

鳥取因幡地方を代表するものは何でしょうか？真っ先に思い浮かぶのは、鳥取砂丘だと思います。この大切な自然の恵みである鳥取砂丘を因幡地域圏外の方からも深く愛され、また後世へと引き継いでいくためにも、美しくそして魅力ある姿を保つために必要な清掃活動へ積極的に参加させていただいております。また、城下町鳥取を代表する川である「袋川」の清掃活動への参加。この袋川の清掃活動は、多くの先輩たちが築き上げた活動のひとつです。2005年度では、『鳥取お城まつりへの参画 日本一の一夜城 誇りのある鳥取城下町』、『新因幡景観維持再生フォーラム 鳥取型シーニックバイウェイの構築』の事業に際し、清掃活動を行いました。また、2006年度『鳥取環境デー ～環境フォーラム』へ参加をして多くのものを学びました。この自然環境への取り組みは、人を育み、想いを共有し、そして愛するまちへの取り組みへ(I♥I N A B A)と昇華されるものであると思います。

## 社会参画・福祉

行政任せ人任せのまちづくりから脱皮して、市民が主体的に社会参画意識を持つことの必要性から2006年に社会参画実践事業～CHOCICE～、2007年には『鳥取市長マニフェスト』市民検証・評価大会を開催し、市民が参政意識、社会への参画意識の向上を図る機会をつくり、2008年には『地域発！来る来るリユース大作戦！！～目指そうエココミュニティータウン～』にて地区公民館に焦点をあてリユース活動を行うことで公民館を地域住民のコミュニケーションできる場として行いました。

福祉施設との交流として若草学園のおたのしみ会や福祉事業としてふれあい広場等に積極的に取り組み、若草学園では2005年から学生にご協力いただき福祉の輪を広げました。また、長年携わってきた献血活動においては例年、街頭献血に参加し社団法人 鳥取青年会議所内外で献血についての大切さや必要性についての勉強会やセミナーを行いました。

## 対内研修・諸活動

会員の青年経済人として必要とされる資質やリーダーシップを向上させるために、定例会時での三分間スピーチ、全体研修会等を実施しております。近年に於いては、会員の拡大も併せて積極的に行うことで「明るい豊かなまち」を創る仲間としての新入会員の研修と連動した活動を行っています。また、時代の変化に対応しながら、組織のあり方や運営について検証を行い、諸規定及び会計基準等の見直しも図っています。

2004年度には創立45周年の記念式典を行い、「私達は、因幡を日本一誇りを持って暮らせるまちにします」というスローガンの基、伝統、経済、参画、循環、心の5つのキーワードに沿って目指すべき中長期運動ビジョンを発表しました。そして、2008年度には今後の道州制導入を見据えた「環光のまち因幡」推進運動を立案し、この因幡地域が世界中から注目される魅力あるまちとして輝いていくための具体的なアクションプランを発表しました。



砂丘 一斉清掃



「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会



地域発！来る来るリユース大作戦！！～目指そうエココミュニティータウン～



全体研修会「J」体験

# 過去への敬意と感謝



創立 5 周年

1964年(昭和39年)創立5周年には、坂尾裕正理事長のもと、鳥取青年会議所5年間の歩みを振り返り、創立当時の想い出や設立時にゆかり深い方々や地域社会の代表者に集まって頂き、市民の皆様へ感謝を込めて開催いたしました。記念事業として、記念植樹「二ノ丸(天球丸)平戸つつじ250株」、また、市民ホール建設資金の基になるべく「くるみ座」劇団を招き公演を行いました。また、1968年(昭和43年)には釧路青年会議所と姉妹関係を結びました。

1969年(昭和44年)中尾喬一理事長のもと創立10周年を迎え、記念ゴルフ大会、チャリティーショー(身障青児に愛の心を)、10周年記念献血、記念誌“ひらけゆく鳥取”発行を行いました。

1974年(昭和49年)清水昭允理事長のもと創立15周年を迎え、住みよいまちを目指すため、地域の環境美化活動を行いました。袋川は、昭和27年の鳥取大火災により由緒ある桜など緑を焼失し、加えて最近の都市化の進行による工場・事業場の排水及び家庭からの雑排水の排出並びにゴミの不法投棄などのため水は汚れ美しい自然の潤いを失い、河川環境は著しく損なわれつつある現状をみて、将来を見据え地に足の着いた活動を展開いたしました。またこの年には社団法人 鳥取青年会議所設立総会が行われ、「社団法人 鳥取青年会議所」となりました。記念事業では、「我々の町に水と緑をとりもどそう」をテーマに、市民運動の一環として「鯉 1 万匹の放流」、グリーンキャンペーンの一環として「さつき125本の記念植樹」、鳥取市勤労青少年センター体育館へ「体育器具 1 式寄贈」、「15周年鳥取JCの歩みスライド作成」を行いました。



鳥取市少年野球大会

1979年(昭和54年)寺谷誠一郎理事長のもと創立20周年をむかえ、JCの沿革多くの市民の方に理解をいただき、同時に記念大会を通して因幡地域の時代への飛躍の年とすべく、記念誌(アンケート)“ひらけゆく鳥取Ⅱ”を発刊し、記念講演では講師に植村直己氏(探検家)を迎え「北極点グリーンランド横断」を行い、記念事業では附属小学校跡地利用構想として「つくろう、薫り高い情操はぐくむ文化公園」の格言を行いました。1984年(昭和59年)大呂隆則理事長のもと創立25周年を迎え、創立から25周年までの鳥取青年会議所の事業史をフローチャート化し、記念誌に過去の活動を記載しました。また、5つの継続事業である「鳥取市少年野球大会」「施設合同運動会」「袋川鯉の放流」「鳥取こどもまつり」「いなばっ子スクール」を記念誌に記載し当時の活動を発信しております。



鳥取こどもまつり



ひな祭り施設交流事業



袋川鯉の放流



鳥取じゃんしゃん祭り



1989年(平成元年)瀧本紀晴理事長のもと創立30周年をむかえ1月に記念式典・懇親会を開催して、6月の"21世紀の鳥取を考える市民フォーラム"で"まちづくりビジョン"をスライド使用で発信し、また、「交通シンポジウム」を開催いたしました。

1994年(平成6年)水野治郎理事長のもと創立35周年をむかえ、記念誌に「因幡都市構想」の考え方を明記し、既存の行政枠を越え、因幡のあるべき姿を研究し運動を展開。因幡が独自性と拠点性を合わせ持つ一つの生活圏としてとらえ活動展開してまいりました。

1999年(平成11年)山根敏樹理事長のもと創立40周年を迎え、今こそ私たち一人ひとりが未来への責任を自らが自覚し、意識を持ってパートナーシップ(=共創の心)を育てて行かなければならない。そして、地域のこと、生活の問題などは、市民自らが責任を持って決める地域主権型社会の確立を、因幡市民と共に行動し、輝く因幡の未来を共創する心「新因幡市民シップ」を育むことを運動ビジョンとして掲げました。これは、因幡市民ひとりひとりが未来への責任を自覚し「パートナーシップ(=共創の心)」を育むことで、輝く因幡の未来を共創する心=「新因幡市民シップ」の確立を目指し、そして因幡市民の皆様へ愛されるよう「因幡市民憲章」の起草・発表を行いました。

また、記念事業として4つのテーマの分科会と「愛・夢・絆・やさしさと勇気のシンフォニー」と題して因幡市民フォーラムを開催しました。

2004年(平成16年)岩成正志理事長のもと創立45周年を迎え人の心や人を中心として、因幡の独自性や伝統文化を見直し「誇」を持って暮らしていく事の出来る「自立した因幡〜オリジナルいなば〜」を創造し、日本人の「心の原風景」とも言える、美しい自然環境や人に優しい人間性等を活かしたまちづくりを行い、日本再生のモデルケースとなりこの国の再生を目指し、伝統や歴史、先人の努力や思いを大切に、人としての尊厳と、この因幡に住む事に誇りを持って暮らしてゆけるまちづくりを行い、この因幡に住んでいる事を誇りに思え、またこのまちで暮らしていきたいと思える「誇」の発掘と創造を機軸とした中長期運動ビジョン「私たちは、因幡を日本一誇りを持って暮らせるまにします」を発表しまちづくりを行って参りました。



21世紀の鳥取を考える市民フォーラム



献血活動



砂丘一斉清掃



新因幡グリーンツーリズム大作戦  
自然体験 in とっとり



麒麟獅子フェスタ

# 釧路市と鳥取市交流の歴史

日本最大の湿原を持つ釧路市と日本最大の砂丘を持つ鳥取市は、都市に隣接した国立公園を持つという、お互いに良く似た自然環境を背景に歩んで来ました。

釧路市の西部、鳥取地域の開発は、明治17年から18年に鳥取藩士族513人が入植し、鳥取村を開墾したことに始まります。その後町制がしかれ、昭和24年に鳥取町は釧路市と合併しましたが、産業基盤の多くは旧鳥取地域に立地していることから、釧路市の発展は鳥取士族によって成し遂げられたと言えます。

また、因幡のシンボルとして鳥取砂丘と並び称される麒麟獅子が、釧路市の鳥取神社に奉納されているのをご存知の方も多と思います。

そういった歴史的背景を踏まえ、昭和39年の釧路市旧鳥取村開村80年を契機に釧路市と鳥取市は姉妹都市提携を行いました。

〈明治17年6月3日〉	鳥取藩士族が賀露港出港 41戸196人
〈明治18年5月11日〉	鳥取藩士族が賀露港出港 64戸317人
〈昭和18年〉	鳥取村に町制施行(開村60年)
〈昭和24年10月10日〉	釧路市と鳥取町が合併
〈昭和38年6月9日〉	釧路にて鳥取開基80年記念式典開催
〈昭和38年10月4日〉	釧路市議会において姉妹都市提携承認
〈昭和39年3月18日〉	鳥取市議会において姉妹都市提携正式了承
〈昭和40年9月29日〉	鳥取市が親善訪問使節団を釧路市へ派遣
〈昭和42年8月8日〉	釧路鳥取傘踊り保存会が鳥取市を訪問
〈昭和42年10月6日〉	釧路観光交歓訪問団が鳥取市へ(裏日本1980kmバス縦断)
〈昭和43年10月1日〉	鳥取市賀露に釧路開拓移民団出港之地記念碑建立
〈昭和49年8月15日〉	釧路鳥取傘踊連がしゃんしゃん祭に参加
〈昭和55年4月8日〉	釧路市鳥取神社創祀90年記念旅行会が鳥取市訪問
〈昭和57年10月8日〉	釧路市開基100年記念事業会鳥取訪問
〈昭和59年6月〉	鳥取県士族移住地碑建立、鳥取開基百年記念碑建立 鳥取開基百年式典、釧路市鳥取10号公園建設 その他鳥取開基百年事業開催
〈平成元年6月9日〉	釧路鳥取報恩会創立百年記念式典開催 (鳥取神社内、百年館にて)
〈平成元年11月14日〉	釧路鳥取報恩会が鳥取市長を表敬訪問
〈平成2年7月8日〉	釧路市「霧フェスティバル」両市間でテレビ交流実施
〈平成3年4月19日〉	鳥取神社創祀百年記念事業実施
〈平成5年7月～8月〉	釧路市・鳥取市姉妹都市提携30周年各種記念事業実施
〈平成5年7月～8月〉	釧路市・鳥取市姉妹都市提携30周年各種記念事業実施
〈平成5年12月3日〉	「釧路開拓移民団出向の地」記念碑除幕式
〈平成15年3月21日〉	鳥取市歴史博物館主催 姉妹都市40周年記念 「移民と移民の歴史展・北海道」が開幕(～5月18日まで)
〈平成15年4月1日〉	釧路市・鳥取市姉妹都市40周年記念式典 市民フォーラム開催(於鳥取市歴史博物館)
〈平成15年11月5日〉	「釧路市・鳥取市のあゆみ」パネル展を開催 (釧路市博物館・鳥取市歴史博物館共催)(～5月18日まで) 以後、両市内の施設を巡回
〈平成21年5月9日〉	(社)鳥取青年会議所創立50周年記念大会 「鳥取JCミュージアム」にて 釧路と鳥取の交流パネル展開催(～5月10日まで)



開村四拾年記念写真  
大正13年(鳥取神社)



「釧路開拓移民団出港の地」  
記念碑(鳥取市賀露大橋脇)



現在の鳥取神社  
釧路市

昭和39年の釧路市と鳥取市の姉妹都市提携を経て、昭和43年に社団法人 釧路青年会議所と社団法人 鳥取青年会議所は姉妹JC関係を締結し、以後42年に渡って交流を深めています。

湿原の国際的な保護に取り組んでいる釧路市、自然砂丘維持と地球砂漠化防止に取り組んでいる鳥取市、どちらも巨大な港湾を持ち、大型店の進出による中心市街地の空洞化、人口の減少など街の構図は驚くほど良く似ています。

また、隣接する自然財産と都市環境の調和、自然保護への国際貢献など、社団法人 釧路青年会議所と社団法人 鳥取青年会議所が取り組んできた課題には共通するテーマも多く見受けられます。

社団法人 釧路青年会議所と社団法人 鳥取青年会議所が姉妹JCとして交流を深め、それぞれが蓄積してきた知恵を互いのまちづくりに活かすことは、両市の人的、経済的、学術的な交流へ結びつくと共に、単に両市が姉妹都市関係であるということではなく、今後の新しい地域開発のあり方を構築し、互いの地域の魅力を高めあう協力関係へとつながります。

その意義を踏まえ、過去42年に渡る交流の歴史に感謝し、姉妹JC提携50周年に向けて、姉妹JC提携40年以降も社団法人 釧路青年会議所と私たち社団法人 鳥取青年会議所は、より一層の交流を深めていかなければならないのです。

- 〈1952年〉 網走青年会議所のスポンサーの下、釧路青年会議所誕生
- 〈1959年〉 米子青年会議所のスポンサーの下、鳥取青年会議所誕生
- 〈1968年〉 札幌での全国大会で鳥取JC中尾理事長が姉妹JC縁組発表
- 〈1969年〉 鳥取青年会議所10周年記念事業に釧路JC八町理事長参加
- 〈1972年〉 釧路青年会議所20周年記念事業に鳥取JCメンバー参加
- 〈1974年〉 5月25日鳥取青年会議所15周年記念植樹(蝦夷松)  
釧路JC石黒靖尋氏寄贈  
以降、各周年事業にはお互いに多くのメンバーが参加しています。

### ・近年の交流

- 〈1999年〉 4月21日姉妹提携30周年記念事業 Exchange21を開催。  
(インターネットを利用した両青年会議所の合同例会・交流)
- 〈2007年〉 社団法人 釧路青年会議所創立55周年記念事業に参加。  
当日、釧路へ行けなかったメンバーもテレビ電話を通じて参加

毎年、1月に行われる京都会議、10月に行われる全国会員大会では、合同LOMナイトを開催し、交流を深めています。



姉妹JC第1回交歓会  
昭和43年10月(於札幌)



友情の木 蝦夷松  
(鳥取西高グラウンド横)



釧路JCお出迎え  
1991年(鳥取空港)



シニアクラブ副会長  
1974年度理事長

## 清水 昭允

社団法人 鳥取青年会議所50周年誠におめでとうございます。

半世紀の間一年一年現役会員が入れ替わり、青春の1ページを繰り広げ、切磋琢磨して歴史を積み重ね、その時代のニーズを汲み取りながら実績を残して来ました。

OBの先輩は1962年に初めての卒業生、金田文夫氏が第1期生その後2008年迄46年間に300人以上のOBを輩出し、その間惜しくも鬼籍に入られた方も25人居られます。「合掌」。が280名近くの方が因幡地区を中心にあらゆる分野で活躍されており先輩、後輩の絆は脈々と続いている事は頼もしい限りです。

私たちシニアクラブも5年前から再発足し、中尾会長を中心にこの50周年を祝うべく現役の会に多く参加し交流して参りました。今年の新年祝賀会で50万円を贈り多くのOBの志を託し、お祝いの気持ちを表しました。

私は1974年理事長の清水昭允です。中尾会長がご都合悪く、代わりに筆を取らせていただきました。

私はJCでおせ(大人)にしてもらったと思っています。入会した頃は10人くらいの小企業でしたが例会、委員会に出るのが楽しみでした。

そこで 多くの先輩、後輩に出会い事業に参加し地域の中で活動する事を覚え他の青年グループとも知り合い輪を広げて行きました。特に献血には関心を持ち街頭献血から組織をつくり、企業へ予定訪問献血へと移行した。又、会員手帳へ血液型を記入し家族に必要な時には枕元輸血もした。

私の時までが山陰ブロック協議会で鳥取～益田まで、平田の飯塚君がプロ長で最終として鳥取、島根に別れた。皆仲良く現在でも集まって賑やかにノミネーションをしている。この様に多くの方と仲良くなり、色々と学び、会社も大きくして来た。JCの研修では議事法とかK J法とかが今でも役立っており、レベルアップにつながってきた。その中でもひらけゆく鳥取パート I は因幡地域にスポットをあて、アンケート方式により意識、問題点、課題について設問式でまとめたが反響が大きく、寺谷君の時にパート II を出し今でも役に立っている。

青年の英知と情熱をぶつけて今後もやってほしい。

1981年度理事長

## 縫谷 昌生

創立50周年おめでとうございます。

私と鳥取JCは二度の出逢いがありました。一度目は中学3年生の時(ボーイスカウトか世界大会の報告)二度目は昭和42年入会時です。現在の私の行動基準はボーイスカウトの10年間、鳥取JCでの18年間のおしえ、研修、貴重な体験のおかげです。創立時からの緑のあった鳥取JCの発展をお祈りし弥栄を送ります。

1994年度理事長

## 水野 治郎

創立50周年、誠におめでとうございます。

OBの一人として、又、過去に35周年に携わらせていた者として感慨深いものがあります。JCは社会貢献を果たすことが出来る組織です。しかし、最も素晴らしいところは、その活動を通してJC会員は元より、多くの方々と交わることで自分自身を高められることだと想います。

現役会員の皆様には、JCに在籍できる幸せを感じながら、更なる活躍をされることを期待しております。



1959 昭和34年



初代理事長

金田 文夫

副理事長: 浜崎 芳宏  
真嶋 寿一

会員数:47名

主な事業

1月25日:設立総会  
4月19日:証承証伝達式  
時事講演会



主な出来事

ハワイ、アメリカの50番目の州に昇格  
皇太子結婚(現天皇)  
日本海テレビ・NHKテレビ鳥取開局

1960 昭和35年



2代理事長

金田 文夫

副理事長: 浜崎 芳宏  
池内 勝信

会員数:55名

主な事業

交通標示板、事故標識板贈呈  
報道機関との座談会



主な出来事

ケネディがニクソンを僅差で破った  
だっちゃん爆発的人气  
春の甲子園(センバツ高校野球)米子東準優勝

1961 昭和36年



3代理事長

浜崎 芳宏

副理事長: 近藤 弘司  
池内 勝信

会員数: 59名

主な事業

鳥取JCニュース発刊  
第一回少年野球大会  
海の子、山の子交歓会  
第一回婦人のつどい



主な出来事

世界初の有人宇宙船  
国内空路にジェット機  
第1回鳥取まつり開催

1962 昭和37年



4代理事長

浜崎 芳宏

副理事長: 坂尾 裕正  
山根 幸男

会員数: 60名

主な事業

沖縄青年団との交歓会  
アクロンJC児童画交換  
交通安全座談会  
県内親善野球大会



主な出来事

キューバ危機  
東京都世界初の1千万人都市  
鳥取県庁落成  
(山陰一のマンモスビルと注目を集める)

1963 昭和38年



5代理事長

山根 幸男

副理事長: 中尾 喬一  
西尾 昌之助

会員数: 66名

主な事業

交通法令講習会  
第一回鳥取青少年音楽会  
日米交換児童画展



主な出来事

ケネディー大統領暗殺  
池田首相、砂糖の自由化決定  
山陰海岸、国立公園に認定

1964 昭和39年



6代理事長

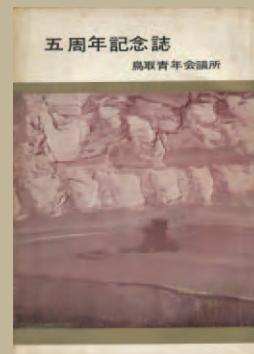
坂尾 裕正

副理事長: 中尾 喬一  
三宅 金延

会員数: 65名

主な事業

市民ホール建設アンケート  
山の子を海へ招待



主な出来事

キング牧師、ノーベル平和賞受賞  
東京オリンピック  
鳥取市と釧路市、姉妹都市縁組

1965 昭和40年



7代理事長

## 西尾 昌之助

副理事長: 鎌田 悟一郎  
                  玉木 久夫

会員数: 68名

### 主な事業

市民ホール建設決定  
しゃんしゃんまつり



### 主な出来事

米軍、ベトナムで爆撃を開始  
朝永振一郎博士、ノーベル物理学賞受賞  
鳥取しゃんしゃんまつりスタート

1966 昭和41年



8代理事長

## 亀井 康孝

副理事長: 鎌田 悟一郎  
                  辻 敏治

会員数: 73名

### 主な事業

社会開発アンケート  
文化講演会  
井植歳男氏講演会  
クリスマス家族会



### 主な出来事

インド首相にインデラ・ガンジーを選出  
ザ・ビートルズ来日、武道館公演  
鳥取三洋電機操業開始

1967 昭和42年



9代理事長

亀井 康孝

副理事長: 鎌田 悟一郎  
辻 敏治

会員数: 76名

主な事業

市民会館落成式記念公演  
中国縦貫道沿線  
JC会議 (津山)  
ワークマンキャンプ



主な出来事

欧州共同体 (EC) 発足  
東京に革新知事 (美濃部東京都知事当選)  
鳥取空港開港

1968 昭和43年



10代理事長

中尾 喬一

副理事長: 濱崎 泰三  
松浦 寛

会員数: 66名

主な事業

釧路JCと姉妹関係を結ぶ  
一日里親 (神戸)  
CDアンケート実施集計



主な出来事

大統領選挙ニクソンが当選  
川端康成氏、ノーベル文学賞受賞  
明治百年記念式典挙行  
(県章・県旗・県歌制定)

1969 昭和44年



11代理事長

中尾 喬一

副理事長: 濱崎 泰三  
涌本 祐之  
足立 利喜雄

会員数: 67名

主な事業

10周年記念献血  
安保問題に関する講演会  
CDP追跡調査  
“ひらけゆく鳥取”刊行



主な出来事

米国のアポロ11号人類初月面着陸に成功  
GNP神話、GNP世界第2位  
氷ノ山・後山・那岐山国定公園指定

1970 昭和45年



12代理事長

玉木 久夫

副理事長: 河田 博志  
涌本 祐之  
足立 利喜雄

会員数: 79名

主な事業

袋川の視察  
県内献血状況調査  
心障児救急医療体制の実態調査  
議事法、会議運営研修会



主な出来事

ニクソン大統領、ベトナム和平へ  
日本人口1億人突破  
大阪万博  
鳥取市若桜街道で、中国地方初の歩行者天国

1971 昭和46年



13代理事長

# 池内 勝信

副理事長: 古寺 善三  
濱崎 泰三  
山根 常愛

会員数: 85名

## 主な事業

あゆみの箱街頭募金  
チャリティーショー  
交通遺児調査  
第1回サッカー教室



## 主な出来事

ニクソンショック  
沖縄返還協定調印  
鳥取駅前大火

1972 昭和47年



14代理事長

# 古寺 善三

副理事長: 山家 哲彦  
中井 積正  
安東 正

会員数: 89名

## 主な事業

青年の座談会 (6回)  
サタディナイトミーティング  
“きぼうの泉”建設街頭募金対外  
広報“明日のために”



## 主な出来事

ウォーターゲート事件  
冬季オリンピック、札幌大会  
県立博物館開館

1973 昭和48年



15代理事長

涌本 祐之

副理事長: 川島 久  
清水 昭允  
本田 博

会員数: 80名

主な事業

鳥取・津山経済交流会  
城下町生誕400年祭  
子供の国きぼうの泉贈呈式



主な出来事

第4次中東戦争  
第1次オイルショック  
鳥取砂丘 こどもの国オープン

1974 昭和49年



16代理事長

清水 昭允

副理事長: 潮 巽市  
濱崎 貢三  
岡垣 彰

会員数: 98名

主な事業

袋川の鯉の放流  
鯉の募金  
4 JC経済交流会



主な出来事

ニクソン大統領退任  
巨人軍、長嶋選手引退  
日本一の梨選果場、東郷町に完成



1975 昭和50年



17代理事長

山根 常愛

副理事長: 中沢 洋雄  
栗嶋 道和  
福田 洋一郎

会員数: 118名

主な事業

中国親善訪中団  
第1回川上野球教室  
第1回カーニバル鳥取協賛



主な出来事

第1回先進国首脳会議(サミット)開催  
国鉄 新幹線 東京-博多間開通  
県立中央病院新築移転

1976 昭和51年



18代理事長

本田 博

副理事長: 角脇 篤彦  
縫谷 昌生

会員数: 104名

主な事業

青少年スポーツ教室  
経済資料作成  
ワークマンキャンプ



主な出来事

モントリオールオリンピック  
田中角栄元首相 ロッキード事件にて逮捕  
仁風閣修復完成 一般公開となる

1977 昭和52年



19代理事長

# 濱崎 貢三

副理事長: 岩本 章嗣  
寺谷 誠一郎  
水野 一水

会員数: 95名

## 主な事業

わんぱく教室(2回)  
スポーツ教室  
ネパール青年の翼  
木のまつり協賛  
県議会傍聴



## 主な出来事

中国共産党、文化大革命終結宣言  
王貞治選手”世界のホームラン王”  
豪雪、鳥取市で105センチの積雪

1978 昭和53年



20代理事長

# 安東 正

副理事長: 仁保 統博  
山本 雅明  
尾崎 義人

会員数: 98名

## 主な事業

新委員会の増設  
(企画室・地環委・教文委)  
アフター例会設置  
あさってのとつとりを考える会  
親子教室・教育講演会



## 主な出来事

イギリスで試験管ベビー誕生  
新東京国際空港(成田空港)が開港  
国府町の梶山古墳で彩色壁画発見

1979 昭和54年



21代理事長

# 寺谷 誠一郎

副理事長: 角田 正昭  
荒田 英毅  
大呂 隆則

会員数: 104名

## 主な事業

20周年記念誌「ひらけゆく鳥取Part II」刊行  
日本JC出向者会議  
第1回青年経済人会議主管(鳥取ブロック)  
第1回チャリティ・ウォーク



## 主な出来事

英国女性初首相 サッチャー政権誕生  
東京サミット  
鳥取-東京直行便就航

1980 昭和55年



22代理事長

# 水野 一水

副理事長: 青山 征洋  
尾崎 英篤  
安田 晴雄

会員数: 103名

## 主な事業

国際問題委員会新設  
第2回チャリティ・ウォーク



## 主な出来事

モスクワオリンピック  
巨人、長嶋監督辞任、王選手引退  
県人口25年ぶりに60万人台に復活

1981 昭和56年



23代理事長

## 縫谷 昌生

副理事長: 水田 国文  
平田 奏一郎  
竹内 敬雄

会員数: 109名

### 主な事業

第20回 施設合同運動会  
郷ひろみチャリティ・コンサート  
(県政100年国際障害者年)  
ネパール青年の翼月刊誌「是意誌留夢」



### 主な出来事

超高速列車「TGV」運行開始  
ローマ法王が初来日  
鳥取県政100年記念式典挙行(9月12日)

1982 昭和57年



24代理事長

## 尾崎 義人

副理事長: 山本 洋  
渡辺 博  
松岡 正樹

会員数: 97名

### 主な事業

「再編と転換」発行  
いなば25万人の個展  
施設合同ピクニック



### 主な出来事

フォークランド紛争  
中曽根新内閣発足  
アメリカ軍機が鳥取山中に墜落

1983 昭和58年



25代理事長

# 安田 晴雄

副理事長: 今井 陸雄  
森原 強  
森田 善美

会員数: 108名

## 主な事業

日本JC会頭重点テーマ推進賞 優秀賞受賞  
夢現展  
研修特別委員会新設



## 主な出来事

大韓航空機ソ連に撃墜される  
初の比例代表制導入の参院選  
西尾邑次知事誕生

1984 昭和59年



26代理事長

# 大呂 隆則

副理事長: 山田 富士雄  
福本 登  
西本 昇一

会員数: 101名

## 主な事業

鳥取JC25周年記念式典及び  
創立25周年記念誌発行  
青年経済人会議主催(鳥取ブロック)



## 主な出来事

中国と英国の香港返還に関する文書合意  
新札発行(1万円、5千円、千円)  
二十世紀梨、アメリカへ初輸出

1985 昭和60年



27代理事長

山本 洋

副理事長: 熊田 一隆  
門田 成男  
瀧本 紀晴

会員数: 102名

主な事業

わかとり大会後夜祭  
ブロックスポーツ大会主管



主な出来事

メキシコ大地震  
阪神タイガース優勝  
わかとり国体開催

1986 昭和61年



28代理事長

福本 登

副理事長: 谷口 博文  
永東 明  
太田 義人

会員数: 103名

主な事業

「歩こう・知ろう・ふるさとへの路」  
LOVE 鳥取'86  
北前船



主な出来事

フィリピン、アキノ大統領就任  
男女雇用機会均等法施行  
鳥取港、商港として本格スタート

1987 昭和62年



29代理事長

森田 善美

副理事長: 山田 清  
                  姫村 光則  
                  植田 哲朗

会員数: 104名

主な事業

鳥取ブロック会員大会主管  
一万人歌声コンサート  
ふる里音楽祭



主な出来事

ブラックマンデー史上最大の株価大暴落  
国鉄が分割・民営化されJRスタート  
若桜鉄道スタート

1988 昭和63年



30代理事長

熊田 一隆

副理事長: 池上 博行  
                  山崎 安造  
                  松下 栄一郎

会員数: 100名

主な事業

OPEN UP TOMORROW  
バードアイ・ハートアイ



主な出来事

ソウルオリンピック  
リクルート事件発覚  
鳥取一東京間に高速バス「キャメル」運行

1989 平成元年



31代理事長

## 瀧本 紀晴

副理事長: 真嶋 茂  
          亀井 邦夫  
          竹内 章二  
          梨原 剛

会員数: 104名

### 主な事業

鳥取JC30周年記念式典  
おもちゃ博協賛事業  
市民フォーラム  
交通シンポジウム



### 主な出来事

ベルリンの壁崩壊  
消費税スタート  
鳥取おもちゃ博大成功

1990 平成2年



32代理事長

## 植田 哲朗

副理事長: 藤原 正  
          玉川 海潤  
          石本 隆  
          岡村 稔

会員数: 109名

### 主な事業

ブロックスポーツ大会主管  
高速道姫鳥線陳情  
因幡市構想



### 主な出来事

東西ドイツ45年ぶりに統一  
日本人初宇宙飛行(ソ連宇宙船にて)  
山陰合同銀行とふそう銀行が合併



1991 平成3年



33代理事長

**梨原 剛**

副理事長: 兎島 均  
 矢谷 英次  
 松本 智賀男  
 専務理事: 水野 治郎  
 会員数: 109名

主な事業

砂丘週間(砂丘横断クイズ)  
 まちづくり、みちづくりシンポジウム  
 因幡の郷づくり発行



主な出来事

ソ連崩壊  
 長崎県雲仙普賢岳、大火砕流発生  
 鳥取市と韓国・青州市が姉妹提携

1992 平成4年



34代理事長

**岡村 稔**

副理事長: 矢谷 浩之  
 西川 正敏  
 前田 昌志  
 佐藤 洋治  
 専務理事: 千村 直美  
 会員数: 107名

主な事業

日本JC褒賞日本づくり推進賞 最優秀賞受賞  
 因幡の郷づくりフォーラム  
 鳥取豊岡間地域高規格  
 幹線道路陳情



主な出来事

バルセロナオリンピック  
 天皇皇后両陛下、訪中  
 鳥取県全県公園化構想を策定

1993 平成5年



35代理事長

# 松本 智賀男

副理事長: 水野 治郎  
 藤山 倫史  
 千村 直美  
 松本 康宏  
 専務理事: 久本 雅義  
 会員数: 108名

## 主な事業

「因幡デザインマップ」作成/JCスクラムチャート作成/「因幡の国造り」対外広報/「因幡ツインポートストーリー」作成/「日本海ラインシンポジウム」/「いなばっこまちづくりフォーラム'93」



## 主な出来事

[米]ビル・クリントンが42代大統領に就任  
 サッカーJリーグ開幕  
 県民文化会館オープン

1994 平成6年



36代理事長

# 水野 治郎

副理事長: 山田 英之  
 福田 義政  
 安田 和雄  
 太田 栄市  
 専務理事: 山本 力  
 会員数: 110名

## 主な事業

鳥取JC35周年記念式典  
 フォーラム因幡'94  
 Sim City 因幡  
 因幡環境連絡会議  
 因幡・但馬連絡協議会設立



## 主な出来事

ロサンゼルス地震  
 松本サリン事件  
 悲願の智頭線が開業、智頭急行開業

1995 平成7年



37代理事長

## 千村 直美

副理事長: 梨原 奨  
山本 力  
米沢 伸明  
久本 雅義  
専務理事: 玉木 淳二

会員数:111名

### 主な事業

因幡市誕生物語  
100%例会  
ペガサスの郷構想  
麒麟獅子フェスタin因幡'95  
因幡環境スクール  
因幡ハートランド21



### 主な出来事

[韓]ソウル市のデパートの半分が崩壊  
阪神大震災  
中国庭園、わらべ館オープン

1996 平成8年



38代理事長

## 太田 栄市

副理事長: 高見 晃良  
田嶋 広美  
西原 司朗  
専務理事: 久住 豊

会員数:112名

### 主な事業

麒麟獅子フェスタin鳥取砂丘'96  
ハートランド'96  
ペガサスの祭典'96  
合併問題を考える集い  
助けあいのあるまちづくり  
セミナー



### 主な出来事

ペルー日本大使館公邸の人質事件  
小選挙区比例代表並立制による選挙  
世界・梨ドリーム博'96

1997 平成9年



39代理事長

## 久本 雅義

副理事長: 久住 豊  
瀧本 覚  
山根 敏樹  
平尾 勇人  
専務理事: 森原 範彰

会員数: 113名

### 主な事業

「21鳥取JCビジョン」マルチフォーラム／会員拡大特別委員会設置／麒麟獅子フェスタ'97／ときめき夢砂丘／いなば水と緑の体験塾／ふれあい列車遠足



### 主な出来事

「中国香港」がスタート  
ロシアのタンカー沈没事故、重油被害  
山陰・みなと博覧会が開催

1998 平成10年



40代理事長

## 安田 和雄

副理事長: 石上 晋一  
西田 和浩  
田中 誠二  
森原 範彰  
専務理事: 島津 理薦

会員数: 112名

### 主な事業

麒麟獅子フェスタ'98 in こおげ／ブロック会員大会(フォーラム形式)主管／ナイトウォーク／きらめき夢砂丘'98  
行き生き！ふれあいタウン／HOTネットワーク'98



### 主な出来事

インド、パキスタンが核実験  
長野オリンピック開催  
全国高校総合文化祭が鳥取県内で開催

1999 平成11年



41代理事長

# 山根 敏樹

副理事長: 福田 哲也

政田 孝

山根 正紀

涌本 知彦

専務理事: 中井 太一郎

会員数: 116名

## 主な事業

鳥取JC40周年記念大会／40周年記念誌発刊／  
因幡市民憲章起草／INNOVA21発刊／  
麒麟獅子フェスタ99 in かわはら／  
Exchange21／環境交流プログラム in 因幡



## 主な出来事

マカオが中国に返還  
東海村の核燃料工場で国内初の臨界事故  
とっとり花回廊オープン

2000 平成12年



42代理事長

# 森原 範彰

副理事長: 池内 勝彦

岡田 功一

桶谷 靖志

中井 太一郎

専務理事: 吉川 浩

会員数: 101名

## 主な事業

日本JC褒賞準グランプリ(優秀賞)／  
麒麟獅子フェスタ in 権現まつり／  
世紀越え in 鳥取砂丘／Think GloballyAct Globally  
フォーラム／エコ・スクール21／わくわくサン  
ドランド／ふれ愛チェアウォーカー



## 主な出来事

南北朝鮮首脳が初の会談  
二千円札発行  
鳥取県西部で大地震

2001 平成13年



43代理事長

# 山根 正紀

副理事長: 盛田 茂  
 松岡 稔  
 吉川 浩  
 島津 理薦  
 専務理事: 岡村 裕

会員数: 106名

## 主な事業

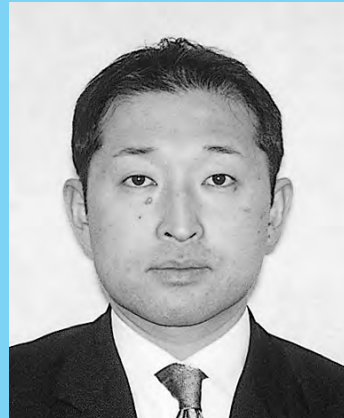
砂丘祭'01 / 麒麟獅子フェスタ /  
 しゃんしゃん祭り参加 / 始めよう環境新世紀  
 セミナー / SAKYU座談会「世界遺産に挑戦」



## 主な出来事

9.11同時多発テロ  
 ノーベル化学賞に野依良治  
 鳥取環境大学開学

2002 平成14年



44代理事長

# 中井 太一郎

副理事長: 田中 誠二  
 伊吹 直  
 今川 武  
 岩成 正志  
 専務理事: 今井 敏明

会員数: 107名

## 主な事業

定款諸規定の変更  
 麒麟獅子フェスタ'02  
 しゃんしゃん祭り参加  
 夢砂丘プロジェクト'02  
 自然体験 in とっとり  
 都市と山村漁村との交  
 流フォーラム  
 わくわくチャレンジ  
 ショップ



## 主な出来事

対イラクで安保理決議  
 日朝首脳会談  
 国民文化祭 夢フェスタとつとりを開催

2003 平成15年



45代理事長

# 岡村 裕

副理事長: 桶谷 靖志

中西 功

松島 英樹

今井 敏明

専務理事: 田中 文啓

会員数: 102名

## 主な事業

積善学園ひなまつり交流会／麒麟獅子フェスタ'03 in  
いわみ／鳥取しゃんしゃん祭り／わくわく因幡森林  
の恵み体験隊／鳥取砂丘ジュニアビーチサッカー／  
大会の共創／チャリティーフリーマーケット／  
麒麟獅子カレンダー作成



## 主な出来事

米軍がイラクに侵攻

自衛隊を戦地へ派遣

青谷羽合道路が開通

# 2004

平成16年



スローガン



“真価する JC” 今まさに未来を切り拓かん！

46代理事長

## 岩成 正志

副理事長：涌本 知彦  
山根 一洋  
寺本 光孝  
安陪 幸伸  
専務理事：山根 康穂

会員数：91名

### 主な事業

鳥取JC45周年記念大会  
45周年記念誌発刊  
中長期運動ビジョンの策定と発信  
砂丘画廊  
しゃんしゃん祭り参加  
講演会「日本一勝ち続けた男の勝利哲学」  
麒麟獅子フェスタ'04 & 食の祭典  
三つ子の魂百まで  
発見因幡のシニアパワー  
青谷スローライフ共創事業

法人鳥取青年会議所 創立45周年記念大会 懇親会  
因幡の恵みに感謝



### 主な出来事

アテネオリンピック  
59年ぶりに戦地へ派兵  
平成の大合併 4市町誕生



# 2005

## 平成17年



47代理事長

## 涌本 知彦

副理事長: 今川 武  
 岡垣 裕造  
 石破 秀文  
 清水 浩司  
 専務理事: 水野 由久

会員数:86名

スローガン



### 静と動

～あらまほしき因幡をめざして～

### 主な事業

中国地区新旧引継会議開催  
 定款諸規定の変更  
 チャレンジウォーキング  
 しゃんしゃん祭り参加  
 新因幡景観維持再生大作戦  
 ～写真家池本喜巳と歩く鳥取百景～  
 鳥取お城まつりへの参画  
 日本一の一夜城誇りある鳥取城下町  
 湖山池魅力発見会  
 新因幡景観維持再生フォーラム  
 ～鳥取型シーニックバイウェイの構築～



### 主な出来事

京都議定書が発効  
 郵政民営化関連法案否決、解散、総選挙  
 「まなびピア鳥取」開催

# 2006

## 平成18年



スローガン



48代理事長

### 寺本 光孝

副理事長: 島津 理薦  
濱崎 大輔  
安田 雄哉  
山根 康穂

専務理事: 西垣 豪

会員数: 84名

#### 主な事業

ASPAC 高松大会 ブース出展  
 ニュースリリース発信  
 鳥取こどもまつりの参画  
 定款諸規定の見直し  
 しゃんしゃん祭りへの参画  
 全体研修会「J」体験  
 CHOICE!  
 「夜版」因幡魅力発見ツアー  
 因幡「城跡」フォーラム



#### 主な出来事

[北朝鮮] 初の核実験を実施  
 イラクから自衛隊撤収  
 全国スポレク祭を開催

2007  
平成19年



49代理事長

安陪 幸伸

副理事長: 西垣 豪  
水野 由久  
有本 由紀子  
山下 浩史  
専務理事: 山崎 康司

会員数: 88名

スローガン



主な事業

「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会  
合宿 DE 合同演奏会  
～奏でよう！おもいやりのハーモニー～  
若草学園施設交流会  
きんさい因幡 鳥取自動車道に乗ってin加西  
しゃんしゃん祭りへの参加  
～因幡市民連～



主な出来事

日中韓首脳会談  
参院選 民主が大勝し与野党逆転  
和牛博覧会

# 2008

平成20年



スローガン



50代理事長

## 西垣 豪

副理事長: 今井 敏明  
森田 智子  
戸田 祐二郎  
専務理事: 三谷 展史

会員数: 87名

### 主な事業

「環光のまち因幡」推進運動の策定  
創立50周年ロゴマーク作成と発信  
ゲストタイム  
第2回合宿DE合同演奏会  
地区発！来る来るリユース大作戦！  
鳥取砂丘イリュージョンVI  
鳥取版ワーキングホリデー  
地域経済活性化のための農業ビジネス経営塾



### 主な出来事

北京オリンピック  
麻生政権誕生  
ガイナレ鳥取、「J」昇格ならずも支援の輪広がる

社団法人 鳥取青年会議所 創立50周年 運動ビジョン

# 「環光のまち因幡」推進運動



## 創立50周年運動ビジョン

# 「環光のまち因幡」推進運動



我々(社)鳥取青年会議所は長きに亘り、「明るい豊かなまち」をつくる為に様々な活動にチャレンジしてきました。1989年から高速道路網の早期実現に向け、当時の建設省への陳情活動を行ってきました。1990年には因幡地域を一つのまちとして見ようという「因幡市構想」を打ち出し、1994年には因幡の持つ都市機能と豊かな田園地帯をバランスよく一体化させる「因幡田園都市構想」を提唱し、合併に対する議論を喚起してきました。1995年から2004年までの10年間「因幡はひとつ」を合言葉に、因幡地域の固有の伝統文化である麒麟獅子に着目し、「麒麟獅子フェスタ」を開催し因幡地域の広域連携を図りました。2000年には「因幡市民共創運動」を提唱し、JCのみではなく因幡市民と協働したまちづくりを展開してきました。さらには次世代を担う青少年の健全育成の為に活動、因幡の誇りである鳥取砂丘に関わる活動等を行い、因幡地域の発展に寄与してきました。

来年(社)鳥取青年会議所は創立50周年を迎えます。我々は今日の激変する社会情勢の中でありながらも、どうすれば因幡がこれから継続的に発展し、因幡市民が地域に自信と誇りを持つことができるのかを真剣に考え、それを確実に実行しなければなりません。その為には、日本の中で、更には世界の中で因幡にしか担えない役割を見つけ、それを因幡市民が手を取り合って、楽しみながら遂行することが必要であると考えます。(社)鳥取青年会議所はこれを長期的かつ発展的に行う為に、これからの10年間の運動ビジョンを策定いたします。

2008年度  
社団法人 鳥取青年会議所  
因幡ビジョン特別委員会

委員長 水野 由久

## 策定にあたって

今のままでは因幡地域は…

政府は10年後をめどに道州制の導入を検討しています。それが実現すれば、都道府県制度は廃止となり、鳥取市は県庁所在地ではなくなります。そして鳥取市が県庁所在地である事による交流人口や経済効果はなくなることが想定されます。明治9年から明治14年までの5年間、鳥取県は鳥根県に統合され、鳥取市は県庁所在地ではなくなり、一気に活気を失った時と同様な状況になることが考えられます。

また因幡地域は中国州であっても中四国州であっても北東の端であり、立地的に最も不利になる地域となります。また、2009年には鳥取自動車道が開通します。因幡にとって鳥取自動車道が開通することは大きな経済効果を生み出す可能性がある反面、地域に魅力がなければ、ストロー現象を起こす可能性もあります。

近い将来に起こる現実を直視し、行動を起こさなければ、因幡地域の人口の減少は加速し、地域経済は衰退し、雇用はさらに不安定となり、因幡市民は将来に希望を持ち、安心・安全な生活を送ることが困難になると想定されます。

## 策定の背景

道州制の導入を見据え、因幡地域が継続的に発展し、因幡市民が自信と誇りを持つ地域になる為には他地域とは明らかに違うアイデンティティーを持つ事が必要です。言い換えれば因幡地域にしか担えない役割を持つということです。

因幡地域には環境分野で世界をリードする大学や研究機関が存在します。また鳥取砂丘をはじめ山・川・海の自然環境がバランスよく残っています。因幡の自然環境を生かした漁業や農業も競争力をもっています。このような因幡地域のポテンシャルを連携させた地域イメージの創造にチャレンジすることが必要であると考えます。

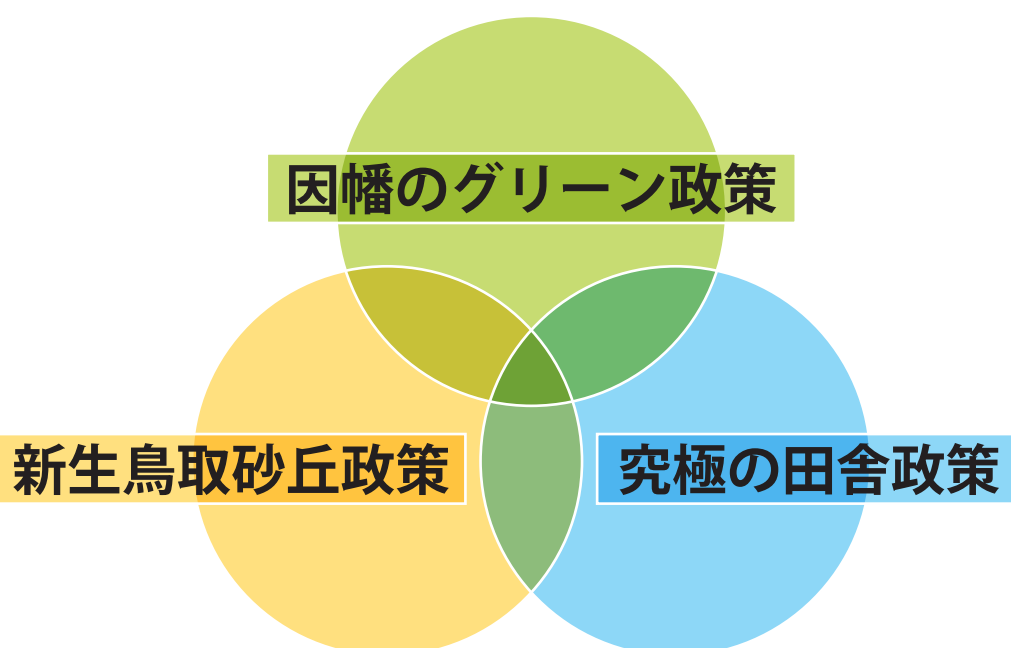
## 「環光のまち因幡」推進運動とは

因幡の豊かな自然環境（ENVIRONMENT）と因幡の特徴を活かした環境保全活動（ECOLOGY）を観光資源として活用し、人と人の環を広めながら「環境」と「経済」が好循環するまちを創る運動です。

## 「環光のまち因幡」推進運動3つの政策

### 因幡のグリーン政策

- 大学・研究機関・企業・行政・NPO等の人材と知識を活用し、因幡地域の特徴を活かした環境への取り組みを行います。
- 環境への取り組みを通して地域の人と協働し、人と人の環を広げます。
- 「環境」と「経済」が好循環するまちを創ります。



### 新生鳥取砂丘政策

- 日本唯一の自然環境である鳥取砂丘を新たな視点で捉え、新しい鳥取砂丘を創造します。
- 鳥取砂丘を新たなコンテンツとコラボレートさせることによって、滞在型・リピート型の環光地にします。
- 鳥取砂丘が世界の乾燥地研究の中心地であることを活用ならびに発信します。

### 究極の田舎政策

- 因幡の田舎環境を生かした「因幡オリジナル」の商品・サービスを地域の人と協働し、楽しみながら外部の人々に提供します。
- 因幡の田舎環境や田舎体験は高価なものであることを啓蒙します。
- 「田舎」と「経済」が好循環するまちを創ります。



## 「環光のまち因幡」推進運動の実施にあたって

### 視点 「人と人の環」

- 因幡地域のオピニオンリーダーと協働した活動を行うとともに、新しいオピニオンリーダーの発掘を行います。
- 因幡市民と協働することによって、「環光のまち因幡」推進運動が因幡のまちづくり運動として広がることを意識して活動します。
- 鳥取自動車道・山陰道を活用し、他の地域と連携したまちづくりを行います。

### 視点 「未来への光」

- 青少年の育成を視野に入れ、積極的に次世代の因幡を担う人材を育成します。
- 「環光のまち因幡」推進運動を各自の会社のビジネスに繋げることを意識することにより、運動の広がりと継続性を強めます。
- 「因幡オリジナル」の商品を創造し、広く発信することにより「環光のまち因幡」の地域イメージを創り、交流人口を増やし、地域経済を活性化します。

### 対象とする期間

創立 50 周年にあたる 2009 年より 10 年間、継続性と発展性をもって取り組む。その間 5 年を目安に必要なに応じて修正を行う。

### 10年後の目標

- 3つの政策を、因幡市民、大学、研究機関、企業、行政、NPO等と協働しながら推進し、ビジネスとして成り立たせます。
- 「環光のまち因幡」の地域イメージを定着させ、因幡地域に環境研究や自然環境を求めて人が集まり、地域経済を活性化させます。

### 50年後の夢

- 因幡は環境分野のシリコンバレーとなり、世界から企業や研究者が集まり、環境分野で世界をリードする地域となります。
- 因幡は世界から必要とされる地域となり、すべての因幡市民が地域に自信と誇りをもって暮らすまちになります。

## これからの社団法人 鳥取青年会議所

2009年度社団法人 鳥取青年会議所は創立50周年を迎え、新たな半世紀へのスタートを切らせていただきます。これもひとえに支援、協力をいただきました、地域の皆様のおかげでございます。50年という長い年月の中で社団法人 鳥取青年会議所は明るい豊かなまちを目指して、その時々を認識し次代を見据え活動して参りました。その活動の50年をビジョンの遍歴から振り返り、また10年後を見据えた新ビジョン「環光のまち因幡」推進運動の現段階での展望を紹介させていただきたいと思っております。

### 【ビジョンの遍歴】

時代は変わろうとも、私たちは明るい豊かなまちの実現をめざして50年間脈々と活動して参りました。活動創世記より、青少年育成活動、福祉活動は行っております。また、砂丘、環境、市民参画、地域間交流、地域経済等様々な事業に取り組んで参りました。

私たちが基軸とするビジョンの大きな転機となったのは1990年、因幡エリアを一つのまちとして見ようという「因幡市構想」であります。「因幡市構想」のもと世代を超え、街に住む私たちが主役になるまちづくりをうたった「パークシティ構想」を打ち出しました。また、1992年には東部高速交通都市圏「因但計画21」を作成し鳥取から見た南北軸のみならず但馬エリアとの広域連携も提言し、まちづくりと道路の拡充を同時進行させることによるまちづくりの広がり・可能性を提唱して参りました。また、地方拠点都市の指定を受けた県東部15市町村＝因幡において、この因幡地域の特性は何かを明らかにすべく、各行政単位にて調査した福祉・文化・交通等様々な要素を一枚の地図に見やすくまとめた「因幡デザインマップ」を作成、また鳥取空港と鳥取港をよりリンクし活用化させていくべきと提唱した「因幡ツインポートストーリー」も発刊し行政に投げかけました。

1994年、創立35周年において、因幡の持つ都市機能と豊かな田園地帯の相互の関係をますます一体化させて発展させる「因幡田園都市構想」を提唱し、「フォーラム因幡94(煮えたらくわ～はもうふるい)」では因幡15市町村でまちづくりに熱心に取り組まれている様々な団体の方々と議論を交わし「因幡はひとつ」であるという認識をさらに深めました。

この「因幡はひとつ」という思いを具現化する一つの方策は、因幡＝東部15市町村が既存の行政枠を見直して縦横に連携を実現し、合併も視野に入れながら地域ビジョンを語っていくことであるとの思いから1995年に漫画「因幡市誕生物語」を製作し、さらに私たちの思いを分かりやすくした解説を加え、世に問いかけてきました。1996年には対内学習会「合併問題を考える集い」、また1997年には「マルチフォーラム」としてまちづくりを検証してまいりました。

1999年の創立40周年時には市民との協働による積極的な活動を目指した「新因幡市民シップ」を発表し「因幡市民憲章」を起草しました。そしてさらに積極的に前向きな行動を行う責任者たらんとする市民づくりを推進する2000年度運動指針「因幡市民共創運動」へと進化して参りました。

2004年には中長期運動ビジョン「私たちは、因幡を、日本一誇りを持って暮らせるまちにします」を発表し、人の心や人を中心として、因幡の独自性や伝統文化を見直し「誇」を持って暮らしていく事の出来る「自立した因幡～オリジナルいなば～」をめざし活動し現在に至ります。

### 【「環光のまち因幡」推進運動のこれから】

2008年度に中長期ビジョンとして「環光のまち因幡」推進運動を策定し、2009年度よりこの運動はスタートしております。昨今の青年会議所活動のなかで一つ一つの事業を見れば意義深く、また、因幡地域に必要な活動であるのは間違いありません。

本来ビジョンとは、夢に日付をつけ責任もって分かりやすく表現し実現(実行)していくことといわれております。昨今はビジョン(運動)とアクション(行動)が一致した活動ができていなかったのではないだろうか。また、その弊害として、青年会議所の中に脈々と受け継がれてきた「不連続の連続」という我々の生命線が途切れかかっているのではないか。そのような思いもあり、10年後を見据えたこのビジョン策定にあたり、「抽象的ではなく、より具体的に」(ビジョンとアクションの一致)という点と「発展的な継続事業を」(不連続の連続)という点の2つの特徴を持たせています。

抽象的なビジョンのほうが、見栄えもよく自由度はありますが、検証が難しい。検証が難しくければ更なる発展への可能性を見出す前に、変化の早い時代に呑み込まれ目的さえも見失ってしまうかもしれません。

このビジョンは社団法人 鳥取青年会議所メンバー一丸となって因幡のまちのため、未来を担う子どもたちのためにもやりぬくという決意表明であります。

このような思いで掲げさせていただいた「環光のまち因幡」推進運動の3つの政策「因幡のグリーン政策」「究極の田舎政策」「新生鳥取砂丘政策」について、現段階での展望をご紹介させていただきたいと思います。

### 【因幡のグリーン政策】

因幡のグリーン政策委員会では、大学・研究機関・行政・NPO等の人材と知識を活用し、因幡地域の特徴を活かした環境への取り組みを行い、地域と協働し人と人の環を広げながら「環境」と「経済」が好循環するまちを創っていくことを目指しております。本年スタートを切るにあたり、「鳥取J Cしいたけの森プロジェクト」を展開しております。1年目～3年目は、地域の人々に森に親しんでもらい、森の大切さを知り、また、原木しいたけ栽培を活用した森の保全にも関わっていただきたいと考えております。また、4年目以降は活動展開期として、地域・教育機関へ環境保全・環境教育としてしいたけの森を提案し、また、日本きのこセンター菌茸研究所・鳥大農学部菌類きのこ遺伝資源研究センターへ調査・研究の依頼、観光協会等と協働し癒しの森の観光商品としての強化を計っていきたくと考えております。最終的には、多くの因幡地域で、しいたけを活用した森の保全が行われ、さらにすべての小学校では地域に学校林を保有し、しいたけ栽培による森の保全活動が行なわれている姿やオリジナルブランド、「エコしいたけ」で他地域への発信をしていく姿、そして多くの人々が入れる美しい森が観光資源として活用されるような姿を目指し、環境と経済の好循環するまちにしていきたいと考えております。

### 【究極の田舎政策】

究極の田舎政策委員会では因幡の田舎環境を生かした「因幡オリジナル」の商品・サービスを地域の人と協働し、楽しみながら外部の人々に提供し、因幡の田舎環境や田舎体験は高価なものであると啓蒙し、「田舎」と「経済」が好循環するまちを創っていくことを目指しております。

因幡地域の経済を好循環させるためには、交流人口を増加させ、それが最終的に移住・定住に繋がり、この地域に多くの人が集まるような仕組みづくりや因幡地域の魅力の発信を地域の人達と協働して創っていくことが必要だと考えます。

本年は初年度として交流人口の増加、移住・定住支援の仕組み、地域の魅力発信の手法等の調査・研究を行い、十分な準備をし、2、3年目には、因幡市民や地元企業に参画していただき、因幡地域との交流やこの地域への移住・定住を活性化させるための魅力の発信や支援を目的とする組織を設立します。3年目～7年目には、この取組みを通して、因幡市民にこの活動を浸透させていくと共に県外に情報発信しながら、地域の受入環境の整備や仕組みづくりを行います。8年目以降、因幡地域のすばらしい自然環境や暮らしやすい環境の元、多くの人が集まり、地域で活躍することにより、地域経済が活性化することを目指していきたくと考えております。

### 【新生鳥取砂丘政策】

新生鳥取砂丘政策委員会では日本唯一の自然環境である鳥取砂丘を新たな視点で捉え、新たなコンテンツとコラボレートさせることにより滞在型・リピート型の観光地を目指し、また世界の乾燥地研究の中心地であることを活用ならびに発信することを目指しております。

本年スタートを切るにあたり、1年目～3年目には乾燥地研究において世界的な機関である乾燥地研究センターをはじめ、環境保全活動が積極的に行われている鳥取砂丘を因幡における環境保全の拠点として位置づけ、鳥取砂丘＝環境ということを目幡市民に発信・定着させていきたくと考えております。また、4年目～7年目以降は鳥取砂丘＝環境をコンセプトにおき、全国に向け発信するとともに、環境と観光(環光のまち因幡)をコラボレートさせた取り組みを構築していきたくと考えております。8年目以降は、環境保全研究や自然環境を求めて人が集まり地域経済が好循環し鳥取砂丘を滞在型・リピート型環光地とし、因幡市民・大学・研究機関・企業・行政・NPO等と協働しながらビジネスとして成り立たせていきたくと考えております。

## 因幡市民憲章 起草にあたって

かけがえのない「ふるさと」だから  
無限の愛をそそいでいこう

かけがえのない「ふるさと」だから  
みんなの夢を築いていこう

かけがえのない「ふるさと」だから  
誇りをもって動いていこう

この「因幡」の未来の子どもたちのために  
かけがえのない「ふるさと」だから

因幡市という行政枠が存在するわけではありません。しかし現在をみつめ、そして未来を見据えたとき、個々別々のみの想いをめぐらすのではなく、みんなの想いを集め、力を合わせた方がよりすばらしいまちになるのではないのでしょうか。麒麟舞うまちに住み、共に歴史を育んできた因幡市民として、今後さらに幸福に発展を遂げていくために…。私たちの行動原理として愛着をもち、みんなで心を合わせ唱和出来るものに育てていきたいという想いを込めて因幡市民憲章を起草いたしました。

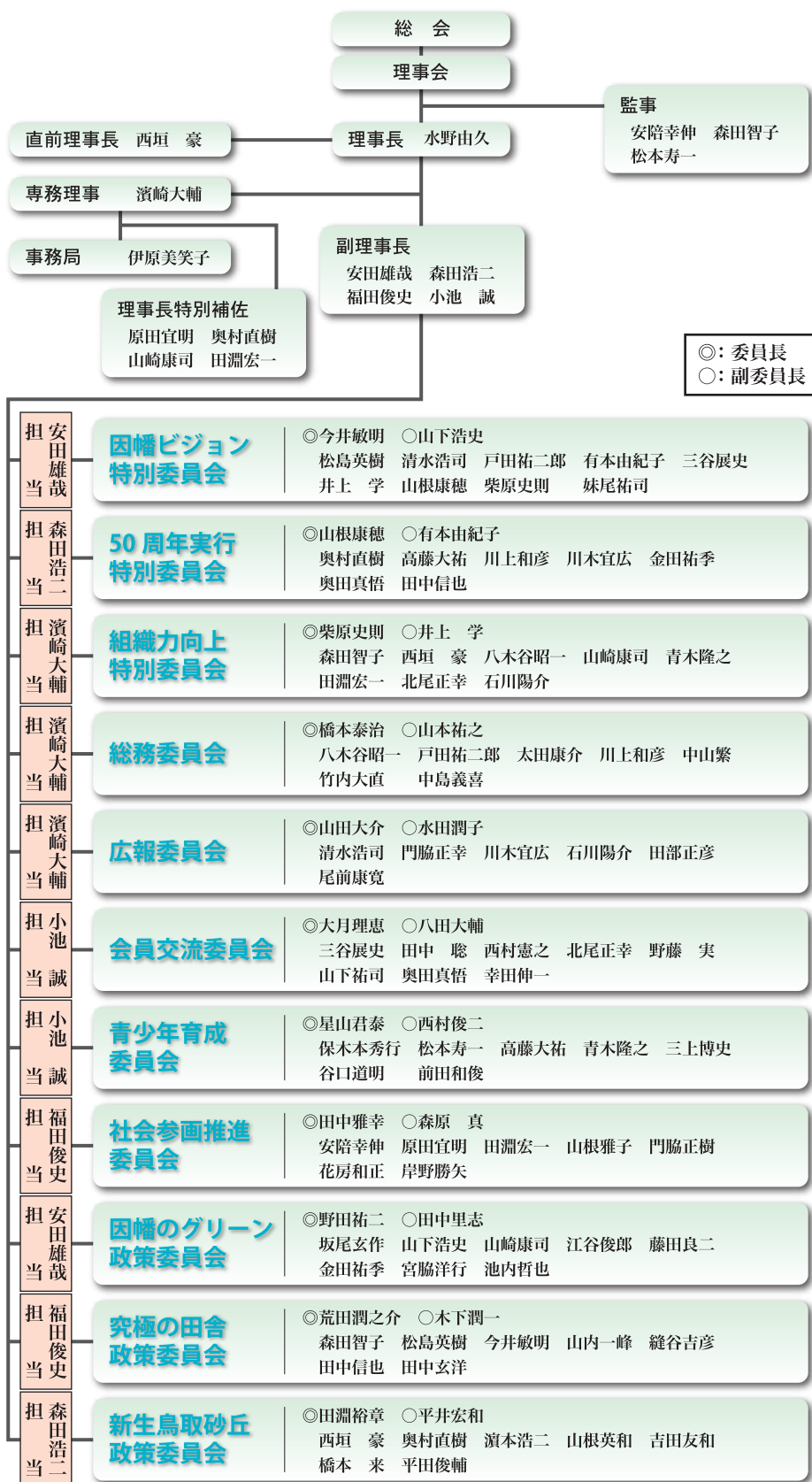
1999年度 創立40周年 起草

# 因 幡 市 民 憲 章

大いなる山々よ 流れ続ける千代川よ  
きらめく鳥取砂丘よ 大陸へと続く日本海よ  
悠々と麒麟舞うまち 私たちは因幡市民です  
夢と 勇気と 誇りを持って  
明るい豊かなまちをつくるため  
ここに因幡市民憲章を定めます

1. いきいきと明るい笑顔を育める、  
すこやかなまちをつくります。
1. 梨の花咲きほこる豊かさ、  
文化と潤いのあるまちをつくります。
1. 万人の希望の声が響き合う、  
元気なまちをつくります。
1. しっかりと小さな一歩を積み重ね、  
地球を愛するまちをつくります。
1. みんなの心をひとつにし、たすけあい、  
活かしあうまちをつくります。

2009年度社団法人鳥取青年会議所組織図





理事長  
**水野 由久**  
みずの よしひさ

2000年入会

●私にとってのJC

JCとは自分自身が未熟であることを身を持って実感することができ、自分自身を成長させるためのフィールドが用意されている組織です。これを「まちづくり」という社会貢献を通して行う素晴らしい組織であると思います。



直前理事長  
**西垣 豪**  
にしがき たけし

2002年入会

●私にとってのJC

この(社)鳥取青年会議所には、この因幡のそして私たちの夢を現実にする力が溢れています。この組織でたくさんのメンバーとお互いを磨き合い、因幡の未来のために力強く活動することは、私にとって「誇り」です。



副理事長  
**安田 雄哉**  
やすだ かつや

2000年入会

●私にとってのJC

人との出会いに尽きるのでは。多くのメンバーや活動を通じての人との出会いは、私にとって大きな財産となっております。これからも多くの出会いに期待しております！



副理事長  
**森田 浩二**  
もりた こうじ

2002年入会

●私にとってのJC

JCとは自己修練の場。様々なことを挑戦することにより自己の成長へつながります。また活動を通し、いろいろな人との出会いは私にとって大切なものです。



副理事長  
**福田 俊史**  
ふくた しゅんじ

1997年入会

●私にとってのJC

率先して行動する事で政治や行政に対してしっかりと政策提言していく地域のDoタンク(シンクタンクに対して)だと思っています。



副理事長  
**小池 誠**  
こいけ まこと

1998年入会

●私にとってのJC

50年間にわたり先輩方がご努力を積み重ねられたからこそ、私たちが現在活動出来ています。私もJC活動の中で、他では得ることができない多くの事を学ばせて頂きました。先輩方へ深く感謝申し上げます。



専務理事  
**濱崎 大輔**  
はまさき だいすけ

2000年入会

●私にとってのJC

長きに亘って受け継がれてきたまちづくりへの熱い想い。たくさんの先輩方から託された因幡の未来。この炎のような情熱と大いなる夢を、私達は新たな次代への繋ぎ手として、しっかりと受け渡していきます。



因幡ビジョン特別委員会 委員長  
**今井 敏明**  
いまい としあき

1998年入会

●私にとってのJC

入会10年が経ち、私にとってJCとは、「素直に自分と向き合える場所であり、真の友情に出会えた場所」であります。喜怒哀楽、悩み、葛藤、実践、支えられ一つ一つ乗り越えてきたすばらしい空間だと思っています。



因幡ビジョン特別委員会 副委員長

山下 浩史  
やました ひろし

1998年入会

●私にとってのJC

財産であるといえます。正直なところ大変だと思ふ瞬間もありますが、それ以上にたくさん学びを得ましたし、一生付き合っていける多くの友人や先輩方に出会えました。JCのメンバーである事に誇りを感じています。



因幡ビジョン特別委員会 委員

松島 英樹  
まつしま ひでき

1997年入会

●私にとってのJC

1997年に入会して13年間在籍して本年度をもって卒業予定ですが、何よりJCで多くの仲間が出来たことが大切な財産です。そして人間として、社会人として成長させていただき本当に感謝しております。



因幡ビジョン特別委員会 委員  
日本JC公益法人格取得実践会議 委員

清水 浩司  
しみず ひろし

1999年入会

●私にとってのJC

学びの場、実践の場、経験の場、気付きの場です。又仲間との出会いがあり、自分自身の考え・想いを深める事も出来、悩み、苦しみながら人間的にいくらか成長しました。今後は恩返し場の場としていく。



因幡ビジョン特別委員会 委員  
総務委員会 委員  
中国地区協議会つよいJAYCEE実践委員会 委員

戸田 祐二郎  
とだ ゆうじろう

1999年入会

●私にとってのJC

個人から世界観と広がるJCは自分の行動に大きな影響を与えました。これからもJC活動通して生まれ育った地域への恩返しを続けて参ります。



因幡ビジョン特別委員会 委員  
50周年実行特別委員会 副委員長

有本 由紀子  
ありもと ゆきこ

1997年入会

●私にとってのJC

多くのことを学び、人として成長できる場所でもあり、生涯の友を得る事ができる場所である。



因幡ビジョン特別委員会 委員  
会員交流委員会 委員

三谷 展史  
みたに のぶみつ

2002年入会

●私にとってのJC

まさに三信条である「修練」「奉仕」「友情」に尽きますね。物の考え方の幅や奥深さをトレーニングし、生まれ育った地域に感謝。そして組織内で年齢・経験・業種を超えた仲間に出会えました。ありがとうJC。



因幡ビジョン特別委員会 委員  
組織力向上特別委員会 副委員長

井上 学  
いのうえ まなぶ

2001年入会

●私にとってのJC

私にとっての(株)鳥取青年会議所とはこれから先の人生を、一社会人としてどう生きていけばよいのかを考えるための、学びの場であると考えています。



50周年実行特別委員会 委員長  
因幡ビジョン特別委員会 委員

山根 康穂  
やまね やすほ

1998年入会

●私にとってのJC

JCとは、より良い社会を実現させる為の組織です。そしてその過程には自己との闘いも御座います。今後も皆様と連携を図り頑張ってまいります。





組織力向上特別委員会 委員長  
因幡ビジョン特別委員会 委員

**柴原 史則**  
しばはら ふみのり

2002年入会

●私にとってのJC

青年会議所にはその活動を通して様々な学びがあります。人前でスピーチすること、企画や考えのプレゼン能力、外部の方との渉外等これらのことは現実に我々の生活に直結するビジネスに於いても大変必要とされる資質であります。私にとってJCはそれらの学び舎であります。



鳥取ブロック協議会連携推進運動実践委員会 委員長  
因幡ビジョン特別委員会 委員

**妹尾 祐司**  
せのお ゆうじ

2002年入会

●私にとってのJC

社会人として最高の学び舎であり、青年という一時の素晴らしさと意義、役割について教えてもらえる場だと思います。そして責務として地域の発展に貢献することができる唯一無二の存在だと日々感じています。



総務委員会 委員長

**橋本 泰治**  
はしもと よしはる

2006年入会

●私にとってのJC

諸先輩方が築き上げて来られた50年という歴史に感謝し、今年をこれからの50年へ向けての出発の年になるようメンバーと一丸となり取組みます。今年の活動が歴史の1ページとして刻む事ができるような実りのあるものにしたいと考えております。



総務委員会 副委員長

**山本 祐之**  
やまもと まさゆき

2007年入会

●私にとってのJC

己の事業だけでは得られない修練の場です。自ら掲げる大きなステージへ上り、失敗を恐れず、また失敗したことで生れる《知恵》を育てる。JCではそれを同志と共に協力しあい習得していく場にしていきます。



総務委員会 委員  
組織力向上特別委員会 委員

**八木谷 昭一**  
やぎたに しょういち

1995年入会

●私にとってのJC

さまざまな学びの場や気づきを与えてくれ、人と人との絆を深め必ず関われば自分自身を成長させてくれる。まさに、英知と勇気と情熱を育む組織です。



総務委員会 委員

**太田 康介**  
おおた こうすけ

2006年入会

●私にとってのJC

スキルアップの場でもあります。また地域活性化にあたって、一事業の一メンバーとして携わる事の出来る場でもあります。在籍年数残り6年、自分の成長を楽しみにJCライフを過ごしていきたいと思っております。



総務委員会 委員  
50周年記念実行特別委員会 委員

**川上 和彦**  
かわかみ かずひこ

2005年入会

●私にとってのJC

「どうすればできるのだろうか?」ということの良い意味で習慣づける場であると思います。しかし日常では「できない理由」は多くの人が教えてください。だからこそJCの魅力に惹かれるのではないかと思います。



総務委員会 委員

**中山 繁**  
なかやま しげる

2008年入会

●私にとってのJC

私にとってJCとは、己の鍛練の場です。普段出来ない事をさせて頂き、それが地域に深く関われ、多くの人達との繋がりを感じさせてもらえるこの上ない組織だと思います。



総務委員会 委員

**竹内 大直**

たけうち ひろなお

2009年入会

●私にとってのJC

入会したばかりでまだ漠然としたイメージしかありませんが、「人間力向上の塾」だと思います。テーマに沿って意見を交わし、失敗や成功を繰り返す中で多くを体験することが出来ると思います。私もこれをチャンスに、大きなステップを踏みたいと思います。宜しくお願いします。



総務委員会 委員

**中島 義喜**

なかしま よしき

2009年入会

●私にとってのJC

新入会員として入会するにあたり、JCは私に、変わる機会を与えてくれる場所だと、期待しております。スキルアップの為、努力を積み重ねていくだけでなく、人間として魅力的である為にも大きな課題を課せられる場所だと認識しております。



広報委員会 委員長

**山田 大介**

やまだ だいすけ

2005年入会

●私にとってのJC

まちづくりというフィルターを通して計り知れない多くの気づきを得て、自分自身を磨くことの出来る2つとない場所です。



広報委員会 副委員長

**水田 潤子**

みずた ひろこ

2006年入会

●私にとってのJC

全体との関わりのなかで自分自身を見つめ直し、周りの人に助けられながら共に物事を生成するノウハウを学べる場であり、また奉仕する心という心の成熟を促してくれる場でもあります。



広報委員会 委員  
鳥取ブロック協議会連携推進運動実践委員会 委員

**門脇 正幸**

かどわき まさゆき

2008年入会

●私にとってのJC

多くのすばらしい出会いを与えてくれる場であり、多くの友情を育む場であり、またあるときは自分と真剣に向き合う場であり、自分自身を成長させてくれる場である。



広報委員会 委員  
50周年実行特別委員会 委員

**川木 宜広**

かわき のぶひろ

2002年入会

●私にとってのJC

まちづくりを通して、自分の限界に挑む事ができる自虐の場。しかし、結果として成長した自分と、かけがえのない仲間を得ることが出来る場であると思います。



組織力向上特別委員会 委員

**石川 陽介**

いしかわ ようすけ

2005年入会

●私にとってのJC

世の中全体の動きを理解する為の場所であり、理解し学んだこと実践できる場所でもある。



広報委員会 委員

**田部 正彦**

たなべ まさひこ

2009年入会

●私にとってのJC

「自分の生まれ育った鳥取の街を新たに見つめ直し、新たに変わっていく機会の場」と捉えております。



広報委員会 委員

**尾前 康寛**  
おまえ やすひろ

2009年入会

●私にとってのJC

「第二の遣り甲斐。私にとってのJCは新しい仲間作りの場、生まれ育った地元社会を体で理解する場、そして社会貢献の場である。」



会員交流委員会 委員長

**大月 理恵**  
おおつき りえ

2001年入会

●私にとってのJC

「普通の会社員」から「普通だけど地域を考へてる会社員」に変わる組織でしょうか。地域社会に身を置きながらも地域のことへ関心を持つ時間さえ持つのが難しいそんな今、JCという組織はそれを常に意識させてくれる団体だと思います。



会員交流委員会 副委員長

**八田 大輔**  
はつた だいすけ

2007年入会

●私にとってのJC

仕事と家庭の中に+JCそして+地域についてと、限られた時間の有効活用を考えさせられます。今の行動で、この先経過又は結果は見えてきていると思います。地域の笑顔を見る為に、何かの形で実践できるよう頑張りたいと思います。



会員交流委員会 委員  
鳥取ブロック協議会LOM支援委員会 委員

**田中 聡**  
たなか さとる

2008年入会

●私にとってのJC

ふるさと鳥取のことをより深く理解するための修行の場です。JCを通して様々なことを経験し学びそして考え、ふるさと鳥取に少しでも貢献できる人物になるよう努力したいと思います。



会員交流委員会 委員

**西村 憲之**  
にしむら のりゆき

2006年入会

●私にとってのJC

交際の幅が大きく広がる場です。いろいろな方と出会い、共に学び、共に楽しむ。この時間と経験の蓄積の中であらためて一人で行うことの限界と仲間と共にやることの力強さを感じています。



会員交流委員会 委員  
組織力向上特別委員会 委員

**北尾 正幸**  
きたお まさゆき

2000年入会

●私にとってのJC

創立50周年の年に青年会議所活動ができることを大変誇りに思っております。これまで先輩諸兄の築き上げてこられた伝統を守りながら、新しい挑戦にも取り組み、創立100周年に向けて活動していきたいと思っております。



会員交流委員会 委員

**野藤 実**  
のとう みほる

2008年入会

●私にとってのJC

地域の笑顔という大きな目標に向かって力をあわせていく仲間、大きな家族だと思います。人それぞれ思いはあるけど、基本はそこなのかなあと、まだ半年の在籍ですがそう思います。



会員交流委員会 委員

**山下 祐司**  
やました ゆうじ

2004年入会

●私にとってのJC

私にとってのJCとは、地域貢献の場です。地域貢献を実現化するためには、自己の成長、そして人と人のつながりである友情がかかせません。この実学で学んだことは、かけがいのない財産であると思います。



会員交流委員会 委員  
50周年実行特別委員会 委員

**奥田 真悟**  
おくだ しんご

2007年入会

●私にとってのJC

JCという場所は第三者から始まる集まりであり、参加しようがしまいが、活躍しようがしまいが、結果を残そうが残さまいが、すべてにおいて自分が出した答えだと直接感じられる唯一の場所であると思います。



会員交流委員会 委員

**幸田 伸一**  
こうだ しんいち

2009年入会

●私にとってのJC

地域活性化は受動的なものではなく、主導的でなければならないと常日頃考えています。青年会の求心力や活動が発端となり「住みよい鳥取の創造」が実現できるよう頑張っていきたいと思っています。



青少年育成委員会 委員長

**星山 君泰**  
ほしやま きみやす

2004年入会

●私にとってのJC

まちづくりや組織作り仲間作り、人間形成の場として貴重な場所だと考えます。JCで得た貴重な体験、仲間や先輩の言葉は私にとってかけがいの無い物です。これからもこの場を大切にしていきたいと思っています。



青少年育成委員会 副委員長

**西村 俊二**  
にしむら しゅんじ

2007年入会

●私にとってのJC

自己啓発の場でもあります。JCで修練したことを仕事に反映でき、また家族の大切さを再認識できます。時の大切さを実感しながら、JCにメンバーの皆様へ感謝しています。



青少年育成委員会 委員

**保木本 秀行**  
ほきもと ひでゆき

1998年入会

●私にとってのJC

私にとってJCとは、出会いの場であったと思います。事業に参加することで出会った人、事業を行う際に支えてくれた多くの人たち。本年で卒業となりますが、この多くの出会いと機会を与えてくれたJCに感謝申し上げたいと思います。



監事  
青少年育成委員会 委員  
鳥取ブロック協議会 監事

**松本 寿一**  
まつもと としかず

1997年入会

●私にとってのJC

人生の転機(チャンス)は自らの行動力で掘り取るもの。一度きりの人生を意味あるものにする為に必要な、最も大切なことを知るための学び舎である。



青少年育成委員会 委員  
50周年実行特別委員会 委員

**高藤 大祐**  
たかふじ だいすけ

2002年入会

●私にとってのJC

私にとって青年会議所とは、社会勉強する学校のようなところ。自分に足りないところ、必要なところを気づかせてくれ、一生涯の友ができる、自分にとってとても必要なところである。



青少年育成委員会 委員  
組織力向上特別委員会 委員

**青木 隆之**  
あおき たかゆき

2005年入会

●私にとってのJC

私にとってのJCとは、多くの機会に恵まれている環境であると思います。それは多くの人と出会い、多くの経験を積むことができるからです。今では2006年の地区会長補佐時代には貴重な機会に恵まれたと実感しています。



青少年育成委員会 委員  
鳥取ブロック協議会研修委員会 委員

**三上 博史**  
み かみ ひろふみ

2008年入会

●私にとってのJC

JCとは、今の自分を映す鏡のようなものだと感じます。活動を通して自分と向き合い、そこでいたらない自分に気づき、愕然とする。そんな経験を積むことのできる貴重な「学び舎」だと考えます。



青少年育成委員会 委員

**谷口 道明**  
たにぐち みちあき

2005年入会

●私にとってのJC

自分自身にとっての「JC」とは、40歳と限られた時間の中で、「奉仕・修練・友情」という三信条のもと一言でいえば生涯でかけがえのないもの「知る」又は「得る」場であると考えます。



青少年育成委員会 委員

**前田 和俊**  
ま え た かずとし

2009年入会

●私にとってのJC

己の意識改革の場だと考えます。入会して間もないですが、これからもっとたくさんの方とお話をし、企業の一社員として、父親として自分に誇りの持てる人間になるよう努力したいと思えます。



社会参画推進委員会 委員長

**田中 雅幸**  
た な か まさゆき

2005年入会

●私にとってのJC

JCに入会しているからこそできる体験や経験をさせていただきました。JCとはいろいろな方々との出会いや、様々な事業を通じて気付きを与えてくれ自分自身が成長できるそんな団体だと思います。



社会参画推進委員会 副委員長

**森原 真**  
もりはら まこと

2007年入会

●私にとってのJC

人が好き、まちが好き、仕事が大切、家族は宝、だからこそJCが大好きです。私の役目を全うします。



監事  
社会参画推進委員会 委員  
鳥取ブロック協議会 直前会長

**安倍 幸伸**  
あ べ ゆきのぶ

1996年入会

●私にとってのJC

50周年の歴史的瞬間に現役メンバーとして立ち会え嬉しく思います。また、入会から今日までの私自身の活動が、鳥取青年会議所の永きにわたる50年の一部であることに誇りに思え感謝の気持ちでいっぱいです。



社会参画推進委員会 委員  
理事長特別補佐

**原田 宜明**  
は ら だ よしあき

2003年入会

●私にとってのJC

生活を構築する要素の一つです。会社と家庭をより良くする上で、JCを通して得られる素晴らしい経験や知識をフィードバックしています。そして、JCの後に皆で飲むビールは最高です！



社会参画推進委員会 委員  
理事長特別補佐  
組織力向上特別委員会 委員

**田淵 宏一**  
た ぶ ち こういち

2005年入会

●私にとってのJC

様々な人との交流を通して、また様々な役職・役割を経験することによって大きく成長した自分を実感することができます。今後もいろいろな関わりを通してさらに前に進んでいけるよう取り組んでいきます。



社会参画推進委員会 委員

**山根 雅子**

やまね みやこ

2000年入会

●私にとってのJC

多くの出会いと気付きがある会だと思えます。JCに入会してから、とても勉強になることばかりで今の私があるのも、JCのおかげだと思っています。



社会参画推進委員会 委員

**門脇 正樹**

かどわき まさき

2008年入会

●私にとってのJC

JCに入会して半年、駆け出しの私はまだ勉強の日々です。自分たちの住む因幡地域のまちづくり、『環光のまち因幡』推進運動を自分自身よく理解し、先輩方に学び、自分が在籍中に50周年を迎えられる事を誇りに思えるよう活動していく所存です。



社会参画推進委員会 委員

**花房 和正**

はなふさ かずまさ

2009年入会

●私にとってのJC

まず、社団法人鳥取青年会議所、創立50周年を迎えるにあたり、誠におめでとうございます。そんな記念すべき年に、入会の御縁をいただき、青年会議所の一員として学び、活動させていただけることに、誇りと感謝の気持ちを忘れずに日々過していきたいと思えます。



社会参画推進委員会 委員

**岸野 勝矢**

きしの かつや

2009年入会

●私にとってのJC

私はこの鳥取青年会議所に入会してまだ間もないですが私にとって何か大きな可能性を感じさせてくれる環境だと思います。それが何なのかは自分自身がこれからの出会いや体験を通して学んで行こうと思います。宜しくお願いします。



因幡のグリーン政策委員会 委員長

**野田 祐二**

のだ ゆうじ

2004年入会

●私にとってのJC

入会以来、二度の委員長を経験(現在進行中)させてもらいました。一度目は周りの人達から教えられてばかりでしたが、二度目はしっかりとメンバーをひっぱりなればと思います。色々大変だけど、やっぱりJCするなら委員長だなあ。



因幡のグリーン政策委員会 副委員長

**田中 里志**

たなか さとし

2007年入会

●私にとってのJC

貴重な時間とお金を使うJC活動。しかし、これは未来の自分への投資だと考えます。そしてその活動を本気で取り組む事で、そこで得た経験が人生の掛け替えのない財産になると信じ、残り10年間精一杯JC活動に向き合っていきたいと思えます。



因幡のグリーン政策委員会 委員

**坂尾 玄作**

さかお げんさく

2002年入会

●私にとってのJC

道の為来たれ！30代前半を家族、仕事そしてJCと優先順位があるはずなのにときに順位が入れ替わりながら時を過ごした。ただしその分、三倍楽しめたんじゃないかな。これからも人の出会いを大切に楽しんで行こう！



因幡のグリーン政策委員会 委員  
理事長特別補佐  
組織力向上特別委員会 委員

**山崎 康司**

やまさき こうじ

2008年入会

●私にとってのJC

喜怒哀楽の詰まった人生そのものと言っても過言ではありません。時にはメンバーと共に喜びを分かち合い、時には怒り哀しみ...そんな人生も40歳までで、残り5年となりましたが、最後までがんばって参ります。



因幡のグリーン政策委員会 委員

**江谷 俊郎**

え た に としろう

2003年入会

●私にとってのJC

私たちが住むこの因幡地域を環境と経済が好循環するまちを創るために青年会議所活動を通じ自己啓発も含め頑張っていきます。宜しくお願いします。



因幡のグリーン政策委員会 委員

**藤田 良二**

ふじ た りょうじ

2008年入会

●私にとってのJC

人間形成の場所であり、多くの事を学ぶ場、研修の場だと思っています。ここにいなければ会う事のできない数々の素晴らしい経験やチャンスがあり、とても勉強になります。これからの人生において大きな財産になると思います。



因幡のグリーン政策委員会 委員  
50周年実行特別委員会 委員

**金田 祐季**

かね た ゆうき

2007年入会

●私にとってのJC

因幡のまちのお年寄りから、おじさんおばちゃん、ちびっこまで、心の底から、「因幡が好きだ」と言えるまち。鳥取JCメンバーに囲まれて、そんな因幡に住めるのも夢ではない気がしています。



因幡のグリーン政策委員会 委員

**宮脇 洋行**

みやわき ひろゆき

2009年入会

●私にとってのJC

およそ、男というものは「困った」と言っただけならぬ一高杉晋作の言葉です。とはいえJCの仲間に助けられ、又誰かの役に立ち思いやりを習慣にし、友情・奉仕によって活動していければと思っています。



因幡のグリーン政策委員会 委員

**池内 哲也**

いけうち てつや

2009年入会

●私にとってのJC

僕にとってのJCとは今では欠くことのできないものとなりました。JCを通してふれあえる人々、JCから学ぶ組織の有り方、JCでないと感じられない地域との密着。いまではすべて僕の財産です。その経験をこれからも大切にしていきたいです。



究極の田舎政策委員会 委員長

**荒田 潤之介**

あらた じゅんのすけ

2006年入会

●私にとってのJC

明るい地域のまちづくりのために、日本の未来や子供たちのために、青年としての英知と勇気と情熱をもって真剣に議論し、活動することで友情を育みながら、多くのことを学べる『学校』である。



究極の田舎政策委員会 副委員長

**木下 潤一**

きのした じゅんいち

2006年入会

●私にとってのJC

私は、JCに入会する前は、まちづくりをすることなど考えたことすらありませんでした。JCがまちづくりの必要性、人と人とのつながりの大切さを教えてくれました。JCは、自分の幸せ、家族の幸せ、地域を豊かにするために必要な組織だと実感しています。



監事  
究極の田舎政策委員会 委員  
組織力向上特別委員会 委員

**森田 智子**

もりた ともこ

2001年入会

●私にとってのJC

為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは己の 為さぬなりけり



究極の田舎政策委員会 委員

**山内 一峰**  
やまうち かずみね

2005年入会

●私にとってのJC

郡部出身の僕にとって、市内での友人が出来るというのが入会の大きな理由でした。そしてその仲間が地元の為に微力でも何か出来ればと思っています。



究極の田舎政策委員会 委員  
鳥取ブロック協議会  
明日の鳥取県を考える委員会 副委員長

**縫谷 吉彦**  
ぬいたに よしひこ

2008年入会

●私にとってのJC

入会2年目の私ですが、JCとは「自分を磨く場所であり、たくさんの良き出会いがある場所」だと感じています。これからも飛躍できるJCの可能性を信じて、精力的に取り組んでまいります。



究極の田舎政策委員会 委員  
50周年実行特別委員会 委員

**田中 信也**  
たなか しんや

2007年入会

●私にとってのJC

まちづくり運動を通じての自己修練の場でもあり、仲間づくりの場です。家族や周りの方、仲間の支えがあってのJCという想いで活動しています。



究極の田舎政策委員会 委員

**田中 玄洋**  
たなか げんよう

2009年入会

●私にとってのJC

怒られるありがたさを忘れないように組織のトップに立つと、怒られる経験が必然的に減ります。怒られる経験を通して、より自分の組織に還元できるような学びを得て、地域に貢献できるような人材になります。



新生鳥取砂丘政策委員会 委員長

**田淵 裕章**  
たぶち ひろあき

2003年入会

●私にとってのJC

この組織から頂いた恩恵は、諸先輩方が長きに渡り築いてきた地域との絆は私たちに深く根付いた財産です。これから卒業まで、この誇りをしっかりと胸において、メンバーとしての責任を再度自覚し、因幡の未来を見据えた運動を推進していきたいと考えます。



新生鳥取砂丘政策委員会 副委員長

**平井 宏和**  
ひらい ひろかず

2007年入会

●私にとってのJC

JCでの活動は様々な分野、業種の方々との交流を通じた自己修練の場と位置づけています。委員会活動などを通じ、メンバーとの議論やそれに伴う行動を重ねていく上で、少しでも向上していけるよう頑張っていきたいと思えます。



新生鳥取砂丘政策委員会 委員  
理事長特別補佐  
50周年実行特別委員会 委員

**奥村 直樹**  
おくむら なおき

2002年入会

●私にとってのJC

普段経験できない事の学びの場であり、多くの人との出会いがあり、その時々自分自身にあった人づくり・まちづくりに対する勇気・責任・友情・気づき・成長を与えてくれるありがたく大切な組織である。



新生鳥取砂丘政策委員会 委員

**濱本 浩二**  
はまもと こうじ

2008年入会

●私にとってのJC

「未知の可能性」です。同じ志をもった仲間たちと「現況からの変化」がどこまでできるのか？を考え、追及していきたいと思えます。





新生鳥取砂丘政策委員会 委員

**山根 英和**  
やまね ひでかず

2004年入会

●私にとってのJC

自己修練の場であると思います。仕事、家庭、JCと生活にメリハリをつけることの難しさを痛感する中で、仲間に手を差し伸べる優しさは人としての品格の成長に大いに寄与してくれるものだと思っています。



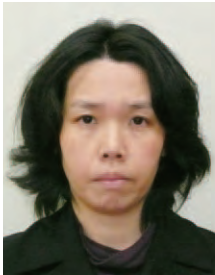
新生鳥取砂丘政策委員会 委員  
鳥取ブロック協議会総務委員会 委員

**吉田 友和**  
よしだ ともかず

2008年入会

●私にとってのJC

私は入会して2年目となるのですが、入会当初はとにかくJC活動に参加するのがやっとなりました。今思えば、JCに入会した事により私の人生は大きく変わったと感じます。今後もメンバーとの活動を通じ、いろんな刺激を受け大きく成長し向上していきたいです。



新生鳥取砂丘政策委員会 委員

**橋本 来**  
はしもと きたる

2009年入会

●私にとってのJC

日常生活では出会う機会のない異業種の方々と交流し、それにより己の見識を深め、社内現場では得ることのできない多様な経験を積み重ね、人間として成長をしていくことができるチャンスです。



新生鳥取砂丘政策委員会 委員

**平田 俊輔**  
ひらた しゅんすけ

2009年入会

●私にとってのJC

未来の自分に投資出来る場所です。自分自身の成長、周りを見渡せる視野の広さを身につけるそんな場所でもあります。この鳥取で生まれ育ってこの鳥取に小さな事でも貢献できるアクションを起こしまちづくりをと思います。



事務局員

**伊原 美笑子**  
いはら みえこ

●私にとってのJC

鳥取青年会議所創立50周年。長い歴史の中、組織の運営や会員の雰囲気も時代と共に変わりました。合わせて我が事務局員歴を思い返すと、感慨深いものがあります。50周年の節目を迎え、更に魅力的な組織づくりに期待します。

## OB 会 員 名 簿

金田 文夫 1期(37年卒)  
(故)

近藤 弘司 2期(38年卒)

坂尾 裕正 3期(39年卒)  
(故)

島田 穰 5期(41年卒)  
(故)

橋本 博夫 5期(41年卒)

山本 兼由 5期(41年卒)

小谷 種夫 6期(42年卒)

武田 吉造 7期(43年卒)

山根 秀治 7期(43年卒)

由谷 圭介 7期(43年卒)

鎌田 悟一郎 8期(44年卒)

西尾 昌之助 8期(44年卒)

松浦 寛 8期(44年卒)

森田 一郎 8期(44年卒)

石黒 松雄 2期(38年卒)  
(故)

小田 信夫 3期(39年卒)  
(故)

梶田 眞輔 4期(40年卒)

中川 清路 5期(41年卒)

松下 弘 5期(41年卒)

亀井 康孝 6期(42年卒)  
(故)

山根 幸男 6期(42年卒)

梨原 巖 7期(43年卒)  
(故)

山村 明 7期(43年卒)  
(故)

石本 博美 8期(44年卒)  
(故)

但井 源一 8期(44年卒)

浜崎 芳宏 8期(44年卒)

三谷 守 8期(44年卒)

山本 富二 8期(44年卒)

山本 良二 8期(44年卒) (故)	米沢 安民 8期(44年卒)
河田 博志 9期(45年卒) (故)	佐野 幸男 9期(45年卒) (故)
田中 正昭 9期(45年卒) (故)	中尾 喬一 9期(45年卒)
三宅 金延 9期(45年卒)	玉木 久夫 10期(46年卒) (故)
平野 之致 10期(46年卒)	森下 耀雄 10期(46年卒)
安部 誠吉 11期(47年卒) (故)	小島 英二 11期(47年卒) (故)
芝岡 禎一 11期(47年卒)	谷口 亮 11期(47年卒)
福田 義信 11期(47年卒)	山家 哲彦 11期(47年卒)
米原 正博 11期(47年卒)	池内 勝信 12期(48年卒) (故)
梶 勤 12期(48年卒)	小谷 信行 12期(48年卒) (故)
辻 敏治 12期(48年卒)	濱崎 泰三 12期(48年卒) (故)
福島 規行 12期(48年卒)	秋山 禎堆 13期(49年卒)
古寺 善三 13期(49年卒) (故)	小林 英明 13期(49年卒)
田中 薫 13期(49年卒) (故)	中井 積 13期(49年卒)
前川 清治 13期(49年卒)	宮本 博介 13期(49年卒)

岩田 純一 14期(50年卒) (故)	川島 久 14期(50年卒) (故)
森 亮輔 14期(50年卒) (故)	山名 利和 14期(50年卒)
足立利喜雄 15期(51年卒)	潮 巽市 15期(51年卒)
熊田 省吾 15期(51年卒) (故)	小林 哲夫 15期(51年卒)
中田 吉人 15期(51年卒)	森 修二 15期(51年卒)
山根 常愛 15期(51年卒) (故)	涌本 祐之 15期(51年卒)
粟嶋 道和 16期(52年卒)	角脇 篤彦 16期(52年卒)
清水 昭允 16期(52年卒)	白木 弘美 16期(52年卒) (故)
竹田 達夫 16期(52年卒)	龍田 彰則 16期(52年卒)
谷口 晃一 16期(52年卒)	中山 隆義 16期(52年卒)
平吾 武士 16期(52年卒)	盛田 栄一 16期(52年卒)
本田 博 17期(53年卒)	松本 順一 17期(53年卒) (故)
村上 征男 17期(53年卒)	岡垣 彰 18期(54年卒)
谷本 光正 18期(54年卒)	濱崎 貢三 18期(54年卒) (故)
牧浦 繁雄 18期(54年卒)	山田 弘 18期(54年卒)

建部 徹 19期(55年卒) (故)	田中 英教 19期(55年卒)
中島 康介 19期(55年卒) (故)	岩本 章嗣 20期(56年卒)
木村 修 20期(56年卒)	武坂 喜己 20期(56年卒)
仁保 統博 20期(56年卒)	福田 修三 20期(56年卒)
丸山 陽光 20期(56年卒)	水田 国文 20期(56年卒)
吉川 哲 20期(56年卒)	青山 征洋 21期(57年卒) (故)
足立 克之 21期(57年卒)	安東 正 21期(57年卒) (故)
奥田東一郎 21期(57年卒)	尾崎 英篤 21期(57年卒)
角田 正昭 21期(57年卒)	福田洋一郎 21期(57年卒) (故)
山根 弘志 21期(57年卒)	山本 雅明 21期(57年卒)
赤松 英洋 22期(58年卒) (故)	荒田 英毅 22期(58年卒)
今井 陸雄 22期(58年卒)	大久保善夫 22期(58年卒)
谷口 武 22期(58年卒)	寺谷誠一郎 22期(58年卒)
濱岡 俊夫 22期(58年卒)	林 繁之 22期(58年卒)
水野 一水 22期(58年卒)	森田 勝憲 22期(58年卒)

石井 秀樹	23期(59年卒)	岩見 経行	23期(59年卒) (故)
加納 衛	23期(59年卒) (故)	田渕 克夫	23期(59年卒)
西原 淳吉	23期(59年卒) (故)	縫谷 昌生	23期(59年卒)
安田 晴雄	23期(59年卒)	山田富士雄	23期(59年卒)
大呂 隆則	24期(60年卒)	尾崎 義人	24期(60年卒)
角谷 春海	24期(60年卒)	加賀田和久	25期(61年卒)
金沢 泰治	25期(61年卒)	水田 憲夫	25期(61年卒)
本村 暁司	25期(61年卒)	森 康彦	25期(61年卒)
山本 洋	25期(61年卒) (故)	伊藤 學	26期(62年卒)
刈込 晴彦	26期(62年卒) (故)	筒井 和彦	26期(62年卒)
中谷 浩輔	26期(62年卒)	西山 林一	26期(62年卒)
平田奏一郎	26期(62年卒)	福本 登	26期(62年卒)
真先 信男	26期(62年卒)	松谷 和雄	26期(62年卒)
森原 強	26期(62年卒)	八木 重雄	26期(62年卒)
山内 一博	26期(62年卒)	山県勇太郎	26期(62年卒)

山崎 敏夫 26期(62年卒)	山田 清 26期(62年卒)
渡辺 博 26期(62年卒)	有本 義和 27期(63年卒)
大西 克典 27期(63年卒)	熊田 一隆 27期(63年卒)
竹内 敬雄 27期(63年卒)	谷本 真一 27期(63年卒) (故)
谷口 博文 27期(63年卒)	田淵 吉男 27期(63年卒)
中村 隆 27期(63年卒)	永東 明 27期(63年卒)
引地 雅巳 27期(63年卒)	古田 治人 27期(63年卒)
松岡 正樹 27期(63年卒)	松本 正昭 27期(63年卒)
森田 善美 27期(63年卒) (故)	太田 泰裕 28期(平成元年卒)
大月 徹 28期(平成元年卒)	佐藤 誠一 28期(平成元年卒)
西本 昇一 28期(平成元年卒)	池上 博行 29期(平成2年卒)
竹内 章二 29期(平成2年卒)	中嶋 大地 29期(平成2年卒)
西尾 正博 29期(平成2年卒)	姫村 光則 29期(平成2年卒)
藤原 義博 29期(平成2年卒) (故)	真嶋 茂 29期(平成2年卒)
松下栄一郎 29期(平成2年卒)	門田 成男 29期(平成2年卒) (故)

山崎 安造	植木 聡
植田 哲朗	大西左登志
亀井 邦夫	瀧本 紀晴
田中 克典	松下 和則
矢谷 博志	山根 一実
石本 隆	児島 均
坂本 治	鈴木 秀人
墨土 功一	田中 博文
田中 道明	玉川 海潤
中山 弘美	藤原 正
水戸 隆	矢谷 英次
吉村 隆彦	有田 勲夫
太田 義人	竹崎 栄志
梨原 剛	林 憲二
矢谷淳一郎	山本 昌徳



稲垣 喜弘	岡田 哲司
岡村 稔	渋谷 貞雄
中村 保彦	西川 正敏
浜崎 晋一	船本 源司
矢谷 浩之	垣屋 豊作 (故)
黒坂 幸夫	三枝 一幸 (故)
玉木 淳二	千村 直美
梨原 奨	福田 義政
藤山 倫史	水野 治郎
安木 悟	山田 英之
山本 力	阿部 一郎
大谷 孝志	加柴 茂
近藤 康之	坂本 茂
前田 昌志	松田 直也
松本智賀男	松本 康宏

美田 眞一	米沢 伸明
阿部 正昭	中山 誠
森下 章	米田 末美
足立 明義	加藤 啓一
西面 英彦	高見 晃良
森田 達彦	山田 泰彦
石上 晋一	笹尾 茂美
瀧本 覚	田中 道男
田中 裕二	千金 周一
久住 豊	福田 哲也
安田 和雄	山本 潤一
池内 勝彦	池田 照男
太田 栄市	太田 達広
尾崎 好邦	藤田 泰央
山下 浩久	山部 栄

新井 慶明	飯塚 智子
上原 浩誉	砂田 隆
田嶋 広美	豊田 浩一
中村俊一郎	久本 雅義
政田 孝	山田 一孝
山根 敏樹	由宇 忠司
米原 正明	武田 一
竹内 秀彦	岡田 功一
西田 和浩	福田 直実
盛田 茂	南場 芳彦
田中 誠二	田島 正方
玉木裕之助	西原 司朗
平尾 勇人	中村 俊弘
杉岡元一郎	安住 篤
桶谷 靖志	松岡 稔

中島 則義	42期(平成15年卒)	浜崎 恵	42期(平成15年卒)
小坂 則夫	43期(平成16年卒) (故)	森田 明彦	43期(平成16年卒)
伊吹 直	43期(平成16年卒)	中川 貴禎	43期(平成16年卒)
中井太一郎	43期(平成16年卒)	西田 正人	43期(平成16年卒)
吉川 浩	43期(平成16年卒)	中村 砂雄	43期(平成16年卒)
山根 正紀	43期(平成16年卒)	中西 功	43期(平成16年卒)
上嶋 啓之	43期(平成16年卒)	山本 義人	44期(平成17年卒)
森原 範彰	44期(平成17年卒)	谷口 彰	44期(平成17年卒)
山根 一洋	45期(平成18年卒)	今川 武	45期(平成18年卒)
野藤 晃寿	45期(平成18年卒)	涌本 知彦	46期(平成19年卒)
島津 理薦	46期(平成19年卒)	山根 和也	46期(平成19年卒)
西尾 誠	46期(平成19年卒)	永野美穂子	46期(平成19年卒)
井関 孝嗣	46期(平成19年卒)	平木 章裕	46期(平成19年卒)
岡村 裕	46期(平成19年卒)	岡垣 裕造	46期(平成19年卒)
濱岡 浩之	46期(平成19年卒)	小谷 英明	46期(平成19年卒)

大林 弘武 46期(平成19年卒)	岩成 正志 47期(平成20年卒)
田中 光男 47期(平成20年卒)	寺本 光孝 47期(平成20年卒)
石破 秀文 47期(平成20年卒)	波当根勝英 47期(平成20年卒)
飯島 礼利 47期(平成20年卒)	藤木 巧 47期(平成20年卒)
藤田 豊博 47期(平成20年卒)	中村 俊介 47期(平成20年卒)
森原 正名 47期(平成20年卒)	

## 物故会員

本庄 勝之 (故)昭和52年	瀬川 健一 (故)昭和61年
-------------------	-------------------

日本青年会議所基本理念

明るい豊かな社会の実現を目指して

青年会議所は活動の基本を「修練」「奉仕」「友情」におき、会員は「明るい豊かな社会を築き上げる」ことを共通の理想としています。また、会員相互の啓発と交流をはかり、公共心を養いながら、地域との協働により社会の発展に貢献することを目的としています。

JC運動の主体は常に「地域」です。

全国のメンバーが、自らが暮らすそれぞれの地域から、国を考え、世界を見つめています。



米国ミズーリ州セントルイスの小さな青年社会活動から生まれ、全米、そして世界へと広がっていった JC 運動の国際機関であり世界最大の青年団。日本は 1951 年に加盟。

全国的レベルの運営について LOM と協働し総合調整にあたる。国家青年会議所として政策提言を行い、国際的には国を代表する。ブロック、地区、NOM はすべて LOM からの出向者によって構成される。

都市ごと、あるいは市部・町村が集まった形で組織され、すべての会員は LOM に確認する。

網 領

われわれ JAYCEE は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。

JC 宣言

日本の青年会議所は混沌という未知の可能性を切り拓き、個人の自立性と社会の公共性が生き生きと協和する確かな時代を築くために率先して行動することを宣言する。

JC 三信条

1. 個人の修練
2. 社会への奉仕
3. 世界との友情

# 修練・奉仕・友情を信条とし、 よりよい社会づくりを目指す

## 青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所（商工会議所法制定にともない青年会議所と改名）設立から、日本の青年会議所（JC）運動は始まりました。

共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもとに各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所（日本JC）が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革等の社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所（JCI）のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を展開しています。

## 青年会議所の特性

青年会議所には、品格ある青年であれば、個人の意志によって入会できますが、20歳から40歳までという年齢制限を設けています。これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られます。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動にフィードバックさせていきます。

青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国会議員をはじめ、知事、市長、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

## 国際青年会議所（JCI）について

自由な社会と経済発展を実現し、新しい社会をリードするにふさわしい人材育成を目的として、1915年にアメリカ・ミズーリ州セントルイスに生まれた小さな青年活動グループから始まったJC運動は、その活動が認められ、アメリカの社会的活動を担う主要な青年団体へと発展していきました。1944年には「積極的な変革を創り出すのに必要な指導者としての力量、社会的責任、友情を培う機会を若い人々に提供することにより、地球社会の進歩発展に資すること」を使命に、アメリカ、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマの8カ国によって国際青年会議所（JCI）が発足。その後、年々加盟国は増え、日本も1951年に加盟、JCIの一員として新たな活動の一步を踏み出しました。

会員数26万人以上の世界で最も大きな青年団体です。現役メンバーに加え約250万人以上のOBがいます。毎年11月には世界会議が開催され、世界中のメンバーが一堂に会する重要な国際交流の場となっています。

## 編集後記

2009年度、この記念すべき年に私たち社団法人 鳥取青年会議所は創立50周年を迎えることが出来ました。これもひとえに多くの方々から当青年会議所の活動に対して、ご理解とご鞭撻を賜ってまいりましたおかげで御座います。心より感謝とお礼を申し上げます。

この創立50周年記念誌は、昨年の50周年準備特別委員会から作成を行ってまいりました。

最初に私たちは過去に発行された社団法人 鳥取青年会議所の周年記念誌すべてに目を通し、諸兄先輩方が過去に行った活動に深い感謝と感動を覚え、そして毎回素晴らしい記念誌が作成されていた事に再認識をさせられました。創立45周年ではデジタル記念誌としてCD-Rが作成され、社団法人 鳥取青年会議所の45年間の活動内容が年表化され、半永久的に保存される素晴らしい資料が作成されました。

今回の記念誌発行に当り、拘りの部分として50年間の活動の足跡に重点をおき、創立から現在までの写真と活動内容を集約し、過去の活動に感謝を込めて記載をさせて頂きました。そして新運動ビジョンである「環光のまち因幡」推進運動の説明と、今後の活動内容をより具現化して多くの方々に発信して、実行をしております。

本誌に記載出来なかった部分につきましては、本年度内に「創立50周年デジタル版記念誌」として当青年会議所ホームページ上に更新する予定で御座います。本誌を併せまして、皆様が様々な活動のツールとしてご利用して頂ければ幸いです。

社団法人 鳥取青年会議所は、この半世紀の節目を通してこれからも「明るく豊かな社会の実現」を目指し、この因幡地域に対して誇りと愛着を持ち続けて皆様と一緒に活動を行ってまいります。

最後になりましたが、記念誌編集にご協力を頂きました、多くの方々に深く感謝申し上げます。ありがとう御座いました。

### 社団法人 鳥取青年会議所 創立50周年記念誌編集担当

#### 50周年実行特別委員会

委員長	山根 康穂
副委員長	有本 由紀子
委員	奥村 直樹
委員	高藤 大祐
委員	川上 和彦
委員	川木 宜広
委員	金田 祐季
委員	奥田 真悟
委員	田中 信也

デザイン・  
レイアウト 株式会社 シセイ堂デザイン  
住 所 鳥取市吉方温泉3丁目802  
電 話 0857-22-1122  
F A X 0857-22-1133

印 刷 日ノ丸印刷株式会社  
住 所 鳥取市寿町915  
電 話 0857-22-2248  
F A X 0857-22-2247







社団法人 鳥取青年会議所